

令和 6 年度

**車椅子利用者等の冬期移動に関する
アンケート**

報 告 書

令和 6 年 8 月

札 幌 市

目 次

I. 調査概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 配布数及び回答者数	1
4. 集計・分析上の注意事項	2

II. 車椅子利用者等調査結果

1. 回答者の属性	3
2. 調査結果（単純集計）	7
3. 調査結果（設問間クロス集計）	14
4. 調査結果（年齢別クロス集計）	18
5. 調査結果（身体障害者手帳区分別クロス集計）	31
6. 自由記述（一部抜粋）	39

III. 同行援護事業者調査結果

1. 調査結果（単純集計）	40
2. 自由記述（一部抜粋）	43

IV. 福祉用具事業者調査結果

1. 調査結果（単純集計）	44
2. 自由記述（一部抜粋）	46

I. 調査概要

1. 調査の目的

降雪地帯である札幌市に居住する障がい者等が抱える冬期間の移動に関する課題について、当事者や関係事業者へアンケート調査を実施し、降雪地帯において外出控えに繋がる要因分析や既に製品化されている用具等のニーズ把握を行うためにアンケート調査を実施した。

2. 調査の概要

(1) 車椅子利用者等へのアンケート調査

ア 調査期間

令和6年7月8日(月)※郵送開始日～令和6年8月1日(木)※必着

イ 調査方法

郵送とWEBによるアンケート調査

ウ 調査対象者

札幌市内に居住する肢体不自由・視覚障害による身体障害者手帳をお持ちの方
計 3,500 人

(2) 同行援護事業者へのアンケート調査

ア 調査期間

令和6年7月8日(月)※郵送開始日～令和6年8月1日(木)※必着

イ 調査方法

郵送とWEBによるアンケート調査

ウ 調査対象者

札幌市にて指定を受けている同行援護事業者
約 200 件

(3) 福祉用具事業者へのアンケート調査

ア 調査期間

令和6年7月8日(月)※郵送開始日～令和6年8月1日(木)※必着

イ 調査方法

郵送とWEBによるアンケート調査

ウ 調査対象者

福祉用具事業者
約 220 件

3. 配布数及び回答数

配布数：車椅子利用者等	3,500 通	／	回答数：1,592 通 (回答率：45.5%)
同行援護事業者	200 通	／	回答数： 88 通 (回答率：44.0%)
福祉用具事業者	220 通	／	回答数： 117 通 (回答率：53.2%)

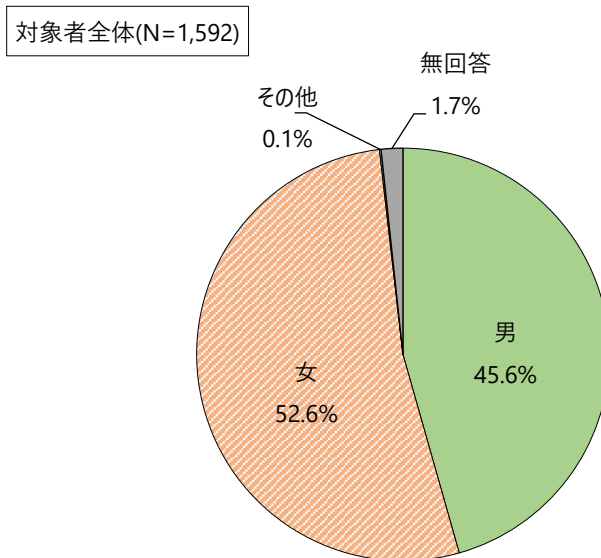
4. 集計・分析上の注意事項

報告書内の図表において、各設問の有効回答数は、無回答を含め「N」で標記している。また、図表中の構成比（％）は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%になっていない場合がある。

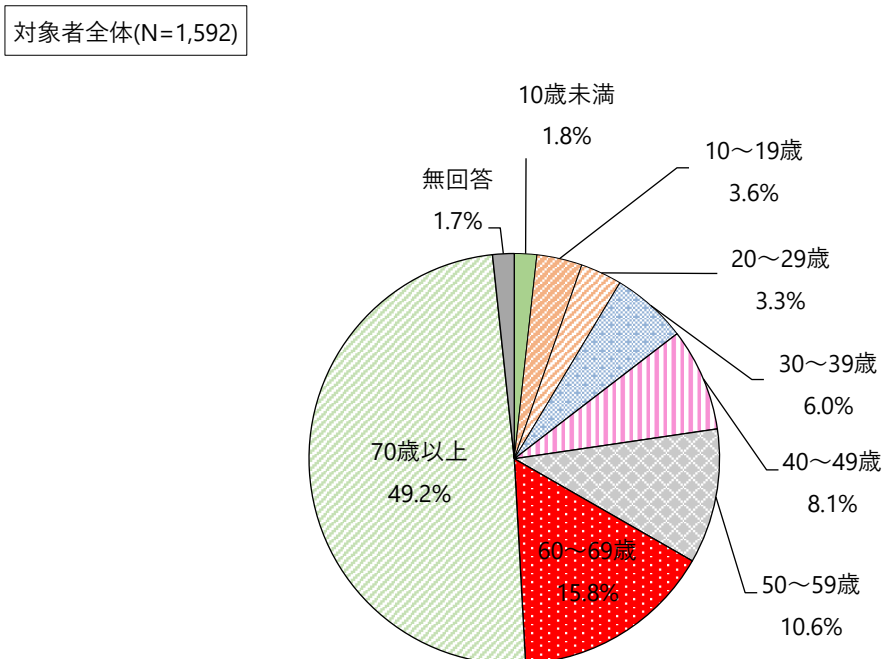
Ⅱ. 車椅子利用者等調査結果

1. 回答者の属性

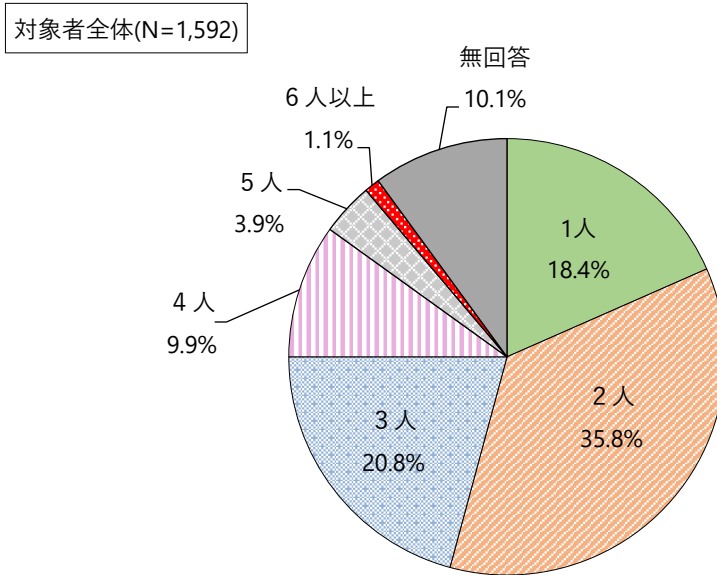
①あなたの性別に☑をつけてください。



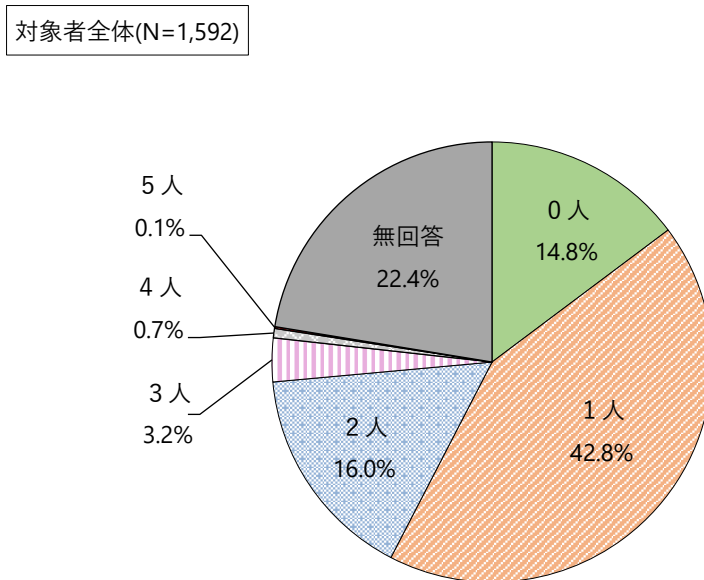
②あなたの年齢について、あてはまるもの1つに☑をつけてください。



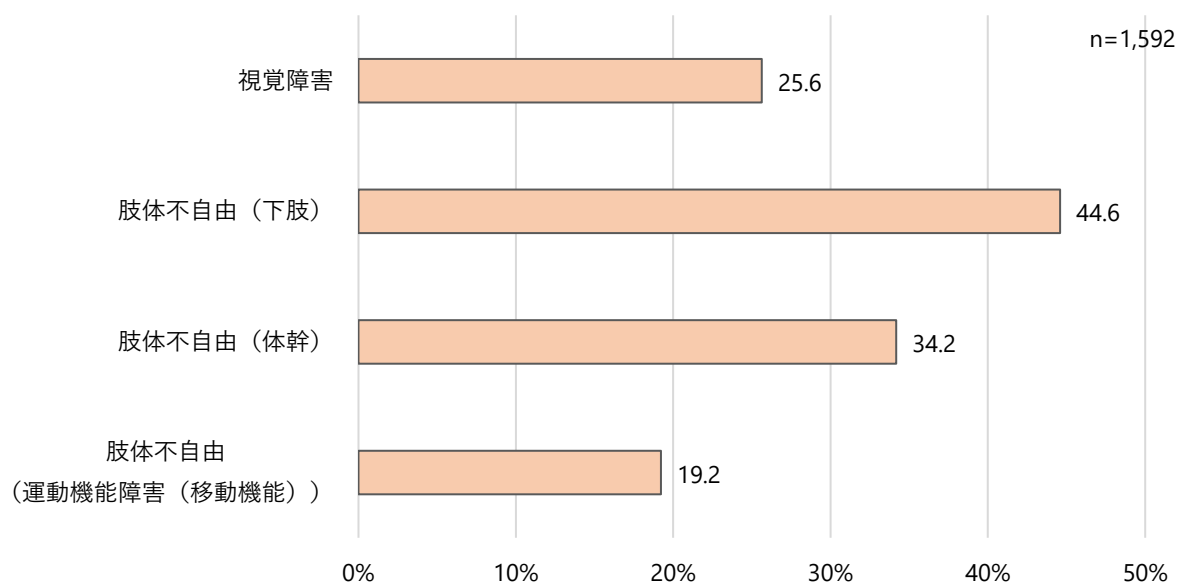
③あなたは何人家族ですか。また、その中であなたを介助してくれる家族は何人いますか。
《家族》



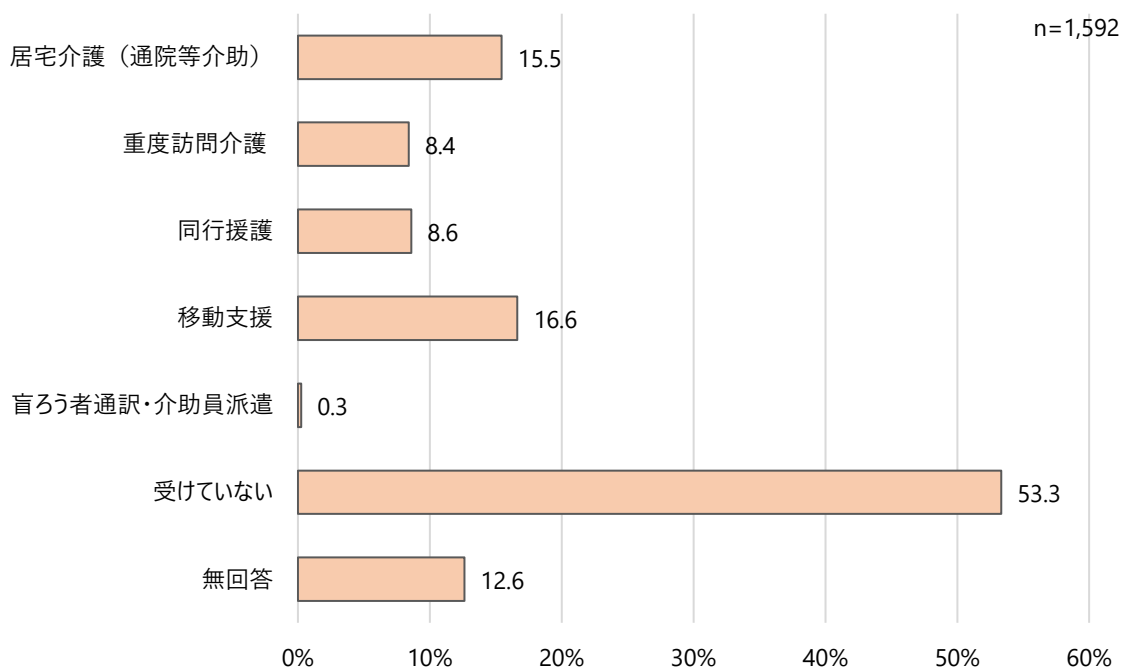
③あなたは何人家族ですか。また、その中であなたを介助してくれる家族は何人いますか。
《介助者》



④あなたの身体障害者手帳の区分について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、等級についてもお答えください。

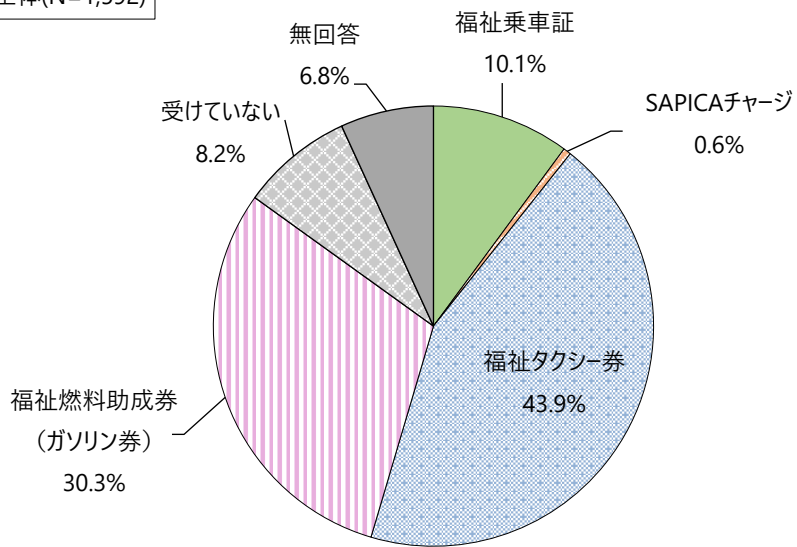


⑤次の中で、あなたが受給している外出サービスはありますか。当てはまるもの全てに☑をつけてください。



⑥あなたは障がい者交通費助成を受けていますか（対象は身体障害者手帳4級以上）。該当する券種1つに☑をつけてください。

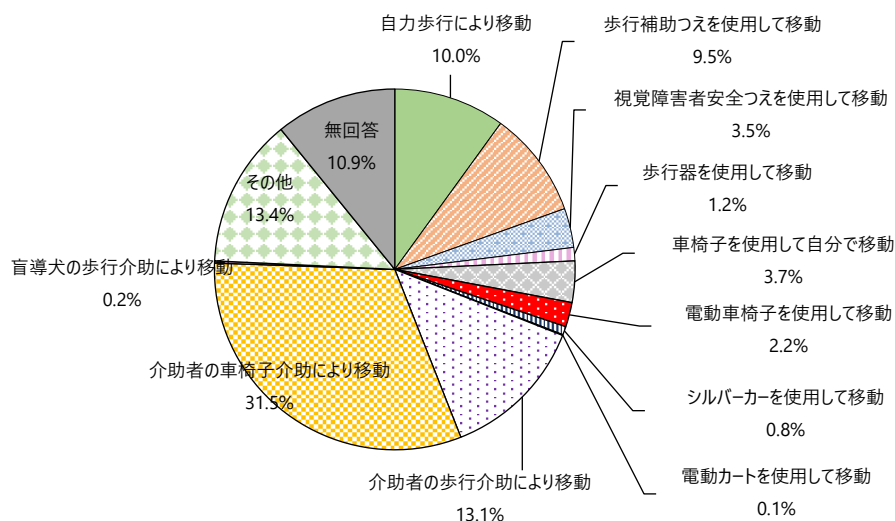
対象者全体(N=1,592)



2. 調査結果（単純集計）

1. ①あなたは冬期間、主にどのような手段で屋外を移動していますか。
最も頻度が高いもの1つに☑をつけてください（公共交通機関、自家用車を除く）。

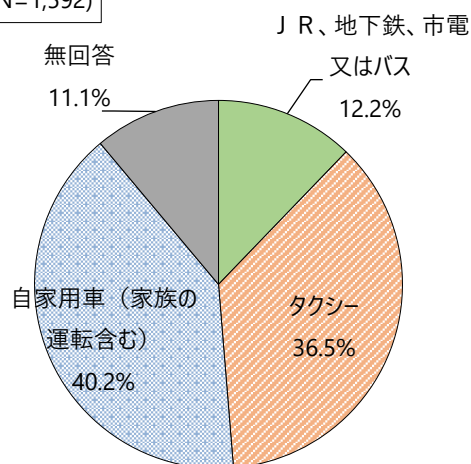
対象者全体(N=1,592)



冬期間の屋外での主な移動手段について、「移動者の車椅子介助により移動」が31.5%と最も高くなっている。次いで、「移動者の歩行介助により移動」13.1%、「自力歩行により移動」10.0%となっている。

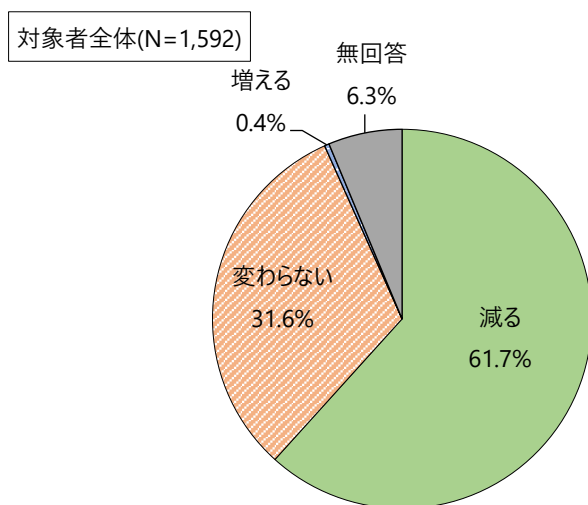
1. ②あなたが冬期間に主に利用する公共交通機関等の1つに☑をつけてください。

対象者全体(N=1,592)



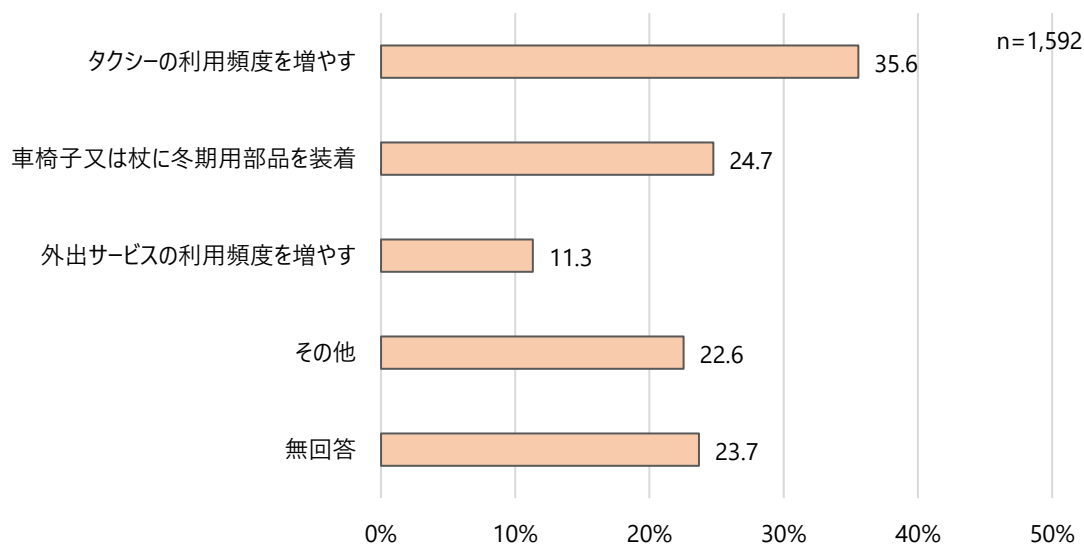
冬期間に主に利用する公共交通機関について、「自家用車（家族の運転含む）」が40.2%で最も高く、次いで「タクシー」が36.5%、「JR、地下鉄、市電又はバス」が12.2%となっている。

1. ③あなたの冬期間の外出頻度は、夏期間と比べて減りますか。



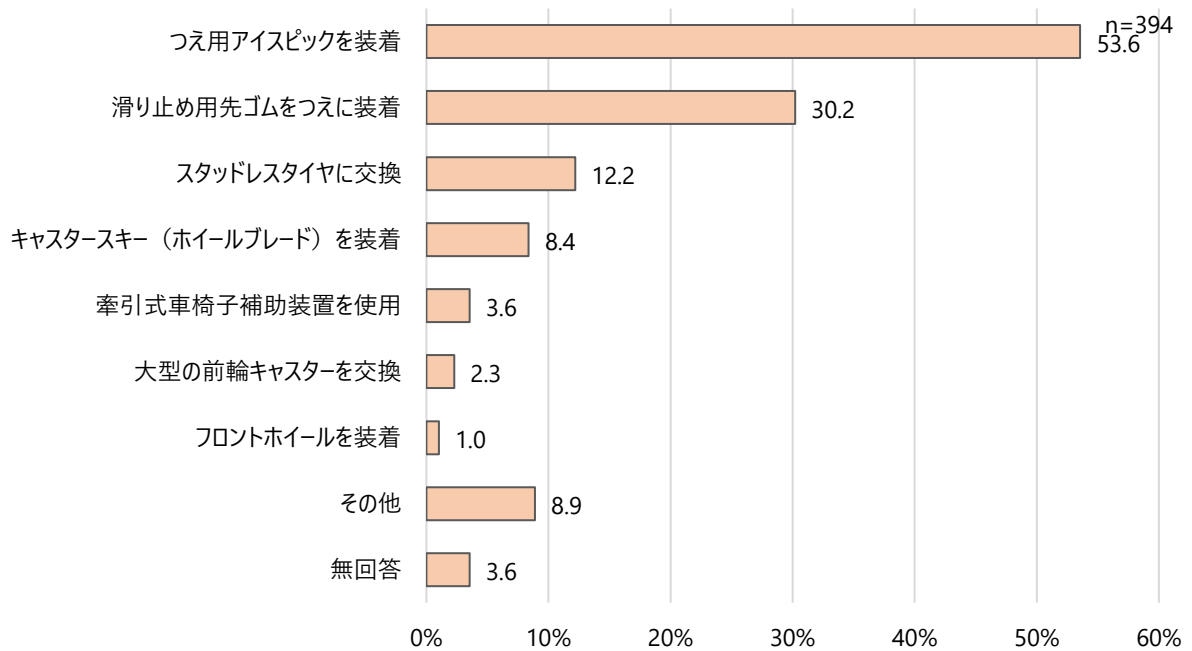
夏期間と比べた冬期間の外出頻度について、「減る」が61.7%であり、約6割が減ると回答した。

1. ④あなたが行っている、冬道移動の対策として該当するもの全てに☑をつけてください。



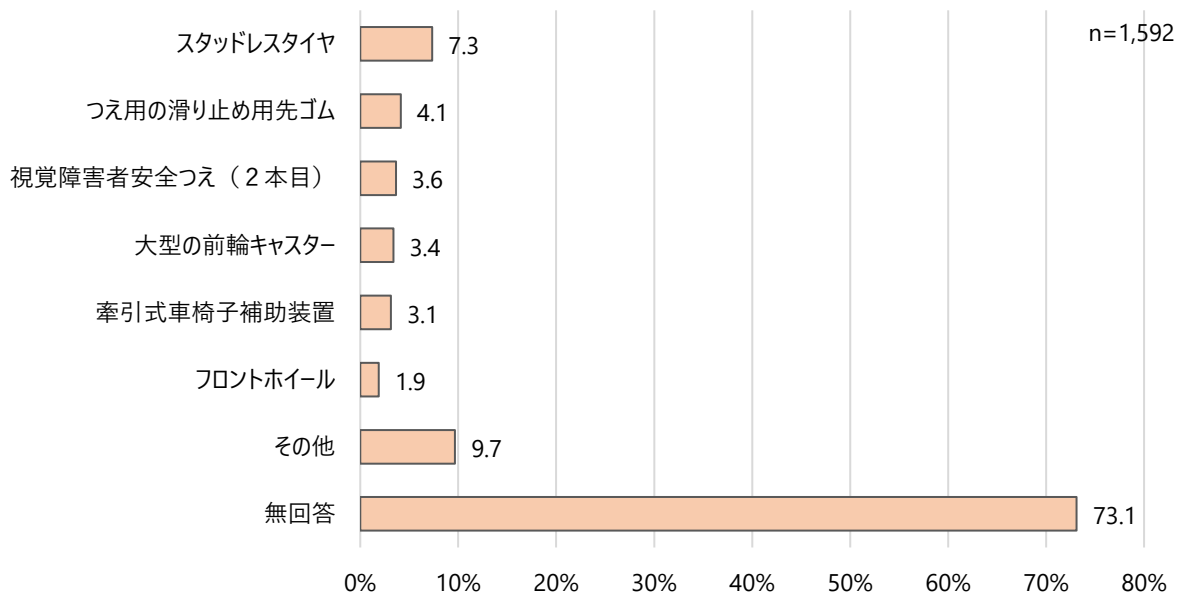
自身が行っている冬道移動の対策について、「タクシーの利用頻度を増やす」が35.6%で最も高く、次いで「車椅子又は杖に冬期用部品を装着」が24.7%、「外出サービスの利用頻度を増やす」が11.3%となっている。

1. ⑤ 《④で「車椅子又は杖に冬期用部品を装着」と答えた方にお聞きします。》
 あなたが実際に使用している冬期用部品全てに☑をつけてください。



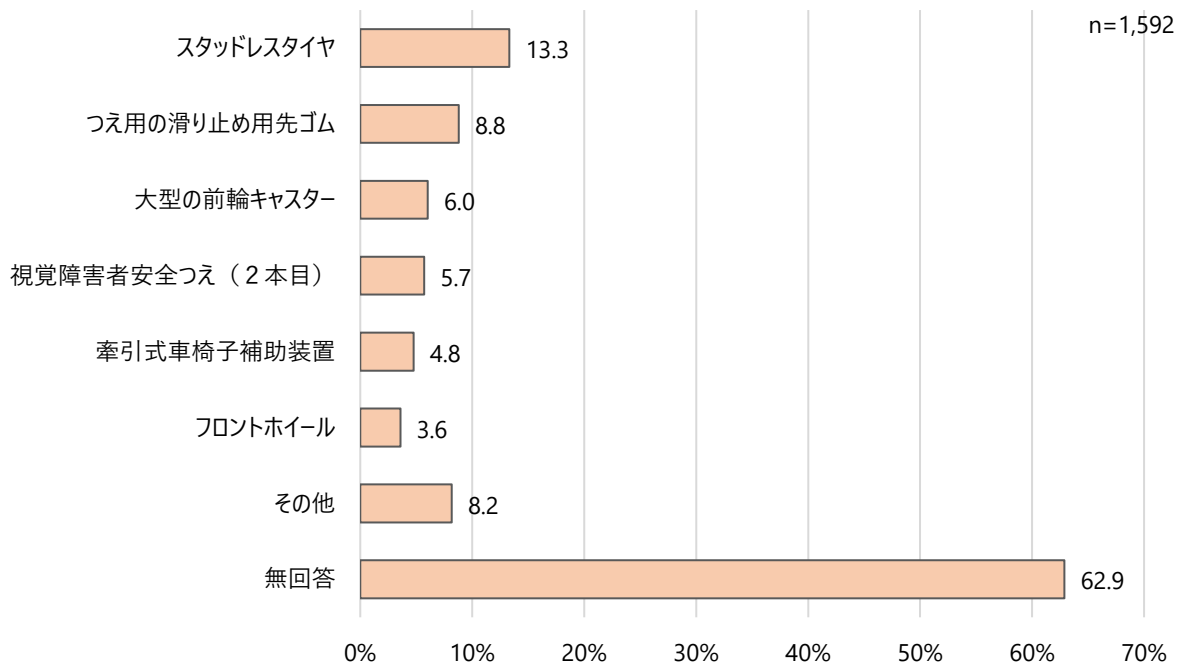
実際に使用している冬期用部品について、「つえ用アイスピックを装着」が53.6%で最も高く、次いで「滑り止め用先ゴムをつえに装着」が30.2%、「スタッドレスタイヤに交換」が12.2%となっている。

1. ⑥購入を検討したが、高額であることを理由に断念した冬期用部品はありますか。
 該当する項目全てに☑をつけてください。



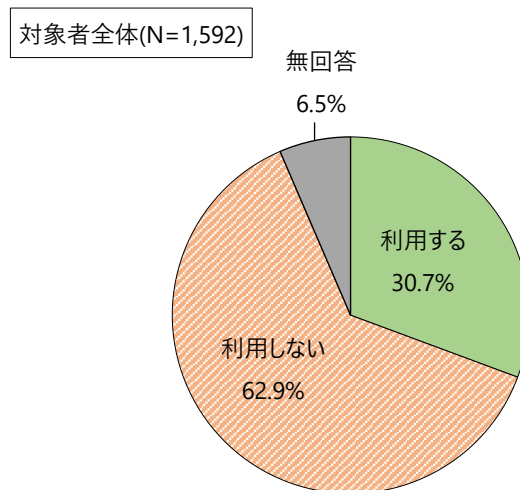
購入を検討したが、高額であることを理由に断念した冬期用部品について、「スタッドレスタイヤ」が7.3%で最も高く、次いで「つえ用の滑り止め用先ゴム」が4.1%、「視覚障害者安全つえ（2本目）」が3.6%となっている。

1. ⑦購入費補助があれば購入を検討したい冬期用部品全てに☑をつけてください。



購入費補助があれば購入を検討したい冬期用部品について、「スタッドレスタイヤ」が13.3%で最も高く、次いで「つえ用の滑り止め用先ゴム」が8.8%、「大型の前輪キャスター」が6.0%となっている。

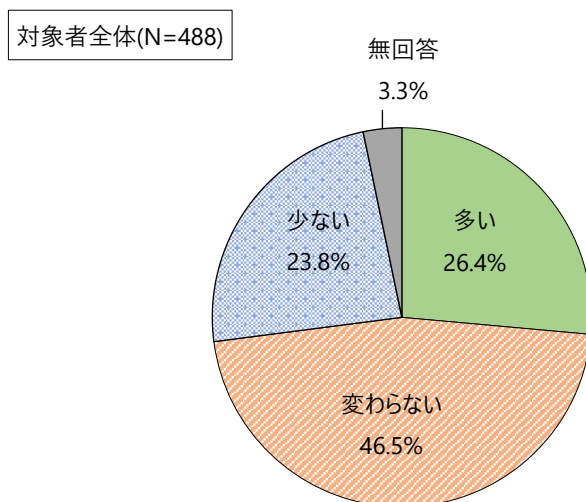
1. ⑧あなたは介護タクシーを利用することがありますか。



介護タクシーを利用することがあるか否かについて、「利用しない」が62.9%であり、約6割が利用しないと回答した。

1. ⑨ 《⑧で「利用する」と答えた方にお聞きします。》

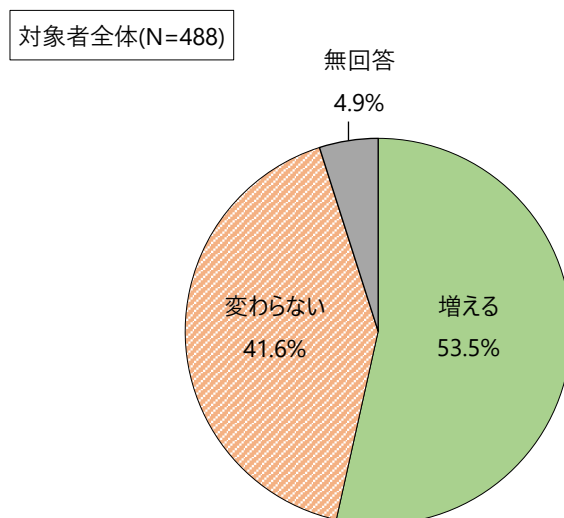
あなたの冬期間の介護タクシーの利用頻度は、夏期間と比べて多いですか。



夏期間と比べた、冬期間の介護タクシーの利用頻度について、「変わらない」が46.5%と最も高くなっている。次いで、「多い」26.4%、「少ない」23.8%となっている。4割以上が「変わらない」と回答した。

1. ⑨ 《⑧で「利用する」と答えた方にお聞きします。》

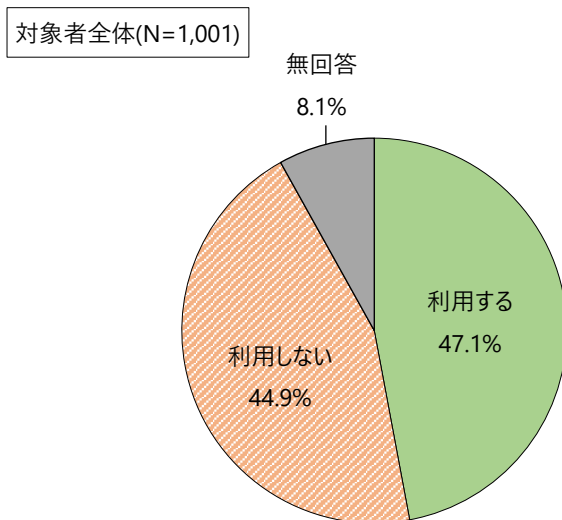
介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、あなたの介護タクシーの利用頻度は増えますか。



介護タクシーの介助料の一部を助成した場合の介護タクシーの利用頻度について、「増える」が53.5%となっており、半数以上が増えると回答している。

1. ⑪ 《⑧で「利用しない」と答えた方にお聞きします。》

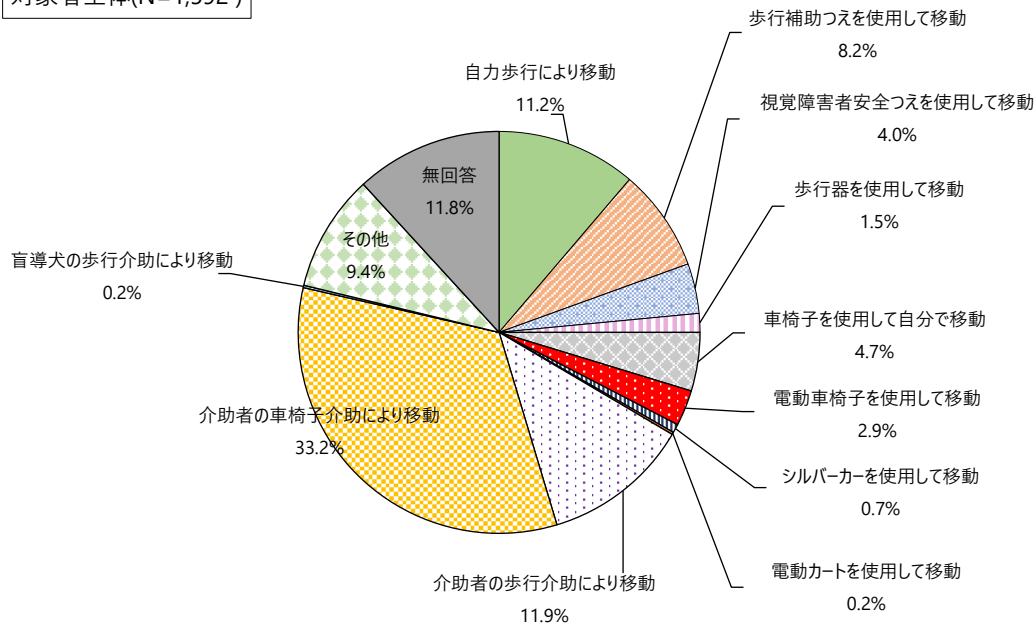
介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、あなたは介護タクシーを利用しますか。



介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、介護タクシーを利用するか否かについて、「利用する」が47.1%と、「利用しない」の44.9%より若干上回っている。

2. ①あなたは冬期間以外、どのような手段で屋外を移動していますか。
最も頻度が高いもの1つに☑をつけてください（公共交通機関、自家用車を除く）。

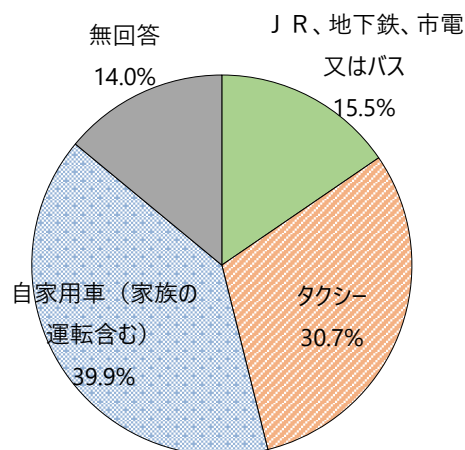
対象者全体(N=1,592)



冬期間以外の屋外での移動手段について、「移動者の車椅子介助により移動」が33.2%と最も高くなっている。次いで、「移動者の歩行介助により移動」11.9%、「自力歩行により移動」11.2%となっている。

2. ②あなたが冬期間以外、主に利用する公共交通機関等の1つに☑をつけてください。

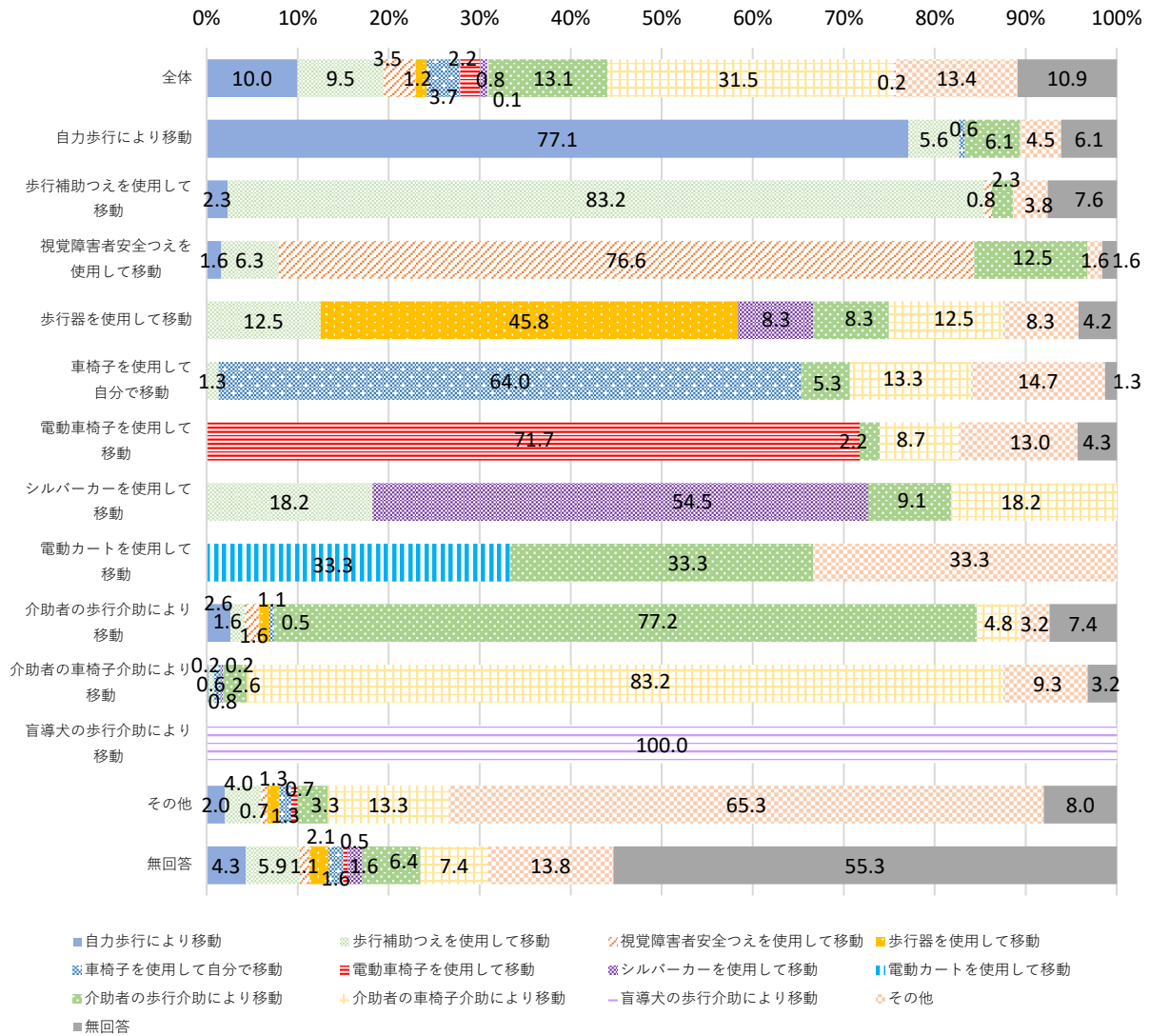
対象者全体(N=1,592)



冬期間以外に主に利用する公共交通機関について、「自家用車（家族の運転含む）」が39.9%で最も高く、次いで「タクシー」が30.7%、「JR、地下鉄、市電又はバス」が15.5%となっている。

3. 調査結果(設問間クロス集計)

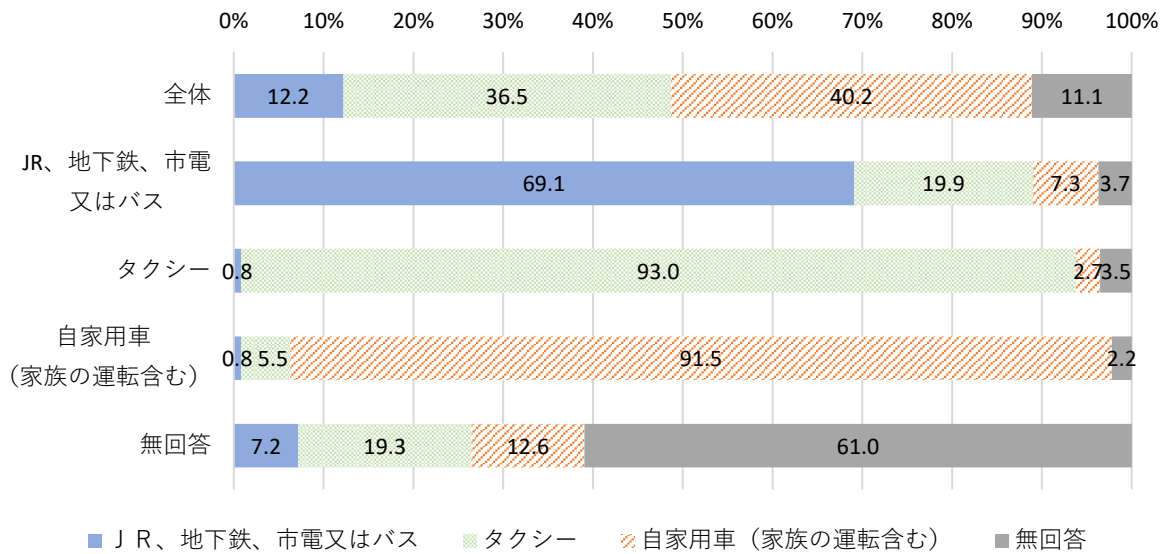
1. ①あなたは冬期間、主にどのような手段で屋外を移動していますか。
 最も頻度が高いものの1つに☑をつけてください(公共交通機関、自家用車を除く)。
 (2. ①とのクロス集計)



※票の見やすさを考慮して、「0.0」は省いています。

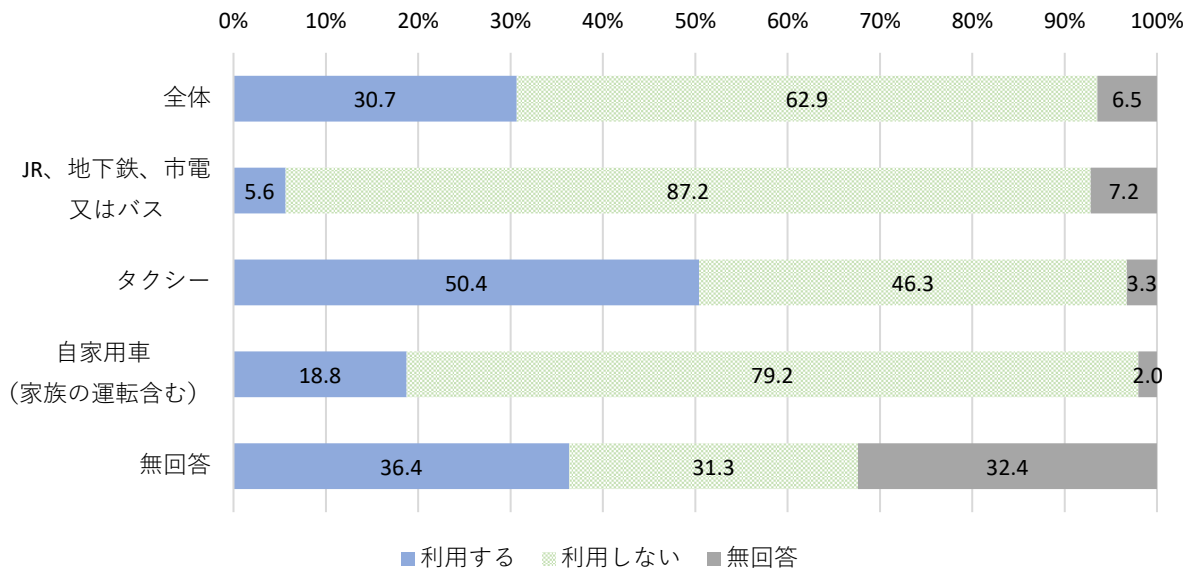
冬期間の屋外移動手段と、冬期以外の屋外移動手段について、「盲導犬の歩行介助により移動」する人は、冬期間もそれ以外も同じ移動手段であると回答した。一方、冬期以外に「歩行器を使用して移動」する人で、冬期間も同じ手段を使用すると回答したのは45.8%にとどまった。

1. ②あなたが冬期間に主に利用する公共交通機関等の1つに☑をつけてください。
 (2②とのクロス集計)



冬期間に主に利用する公共交通機関と、冬期以外に利用する公共交通機関について、「タクシー」、「自家用車(家族の運転含む)」と回答した人は、9割以上が、冬期間もそれ以外も同じ公共交通機関を利用すると回答した。一方、冬期以外に「JR、地下鉄、市電又はバス」を利用する人で、冬期間も同じ交通機関を利用すると回答したのは約7割にとどまった。

1. ③あなたは介護タクシーを利用することがありますか。
 (1.②とのクロス集計)

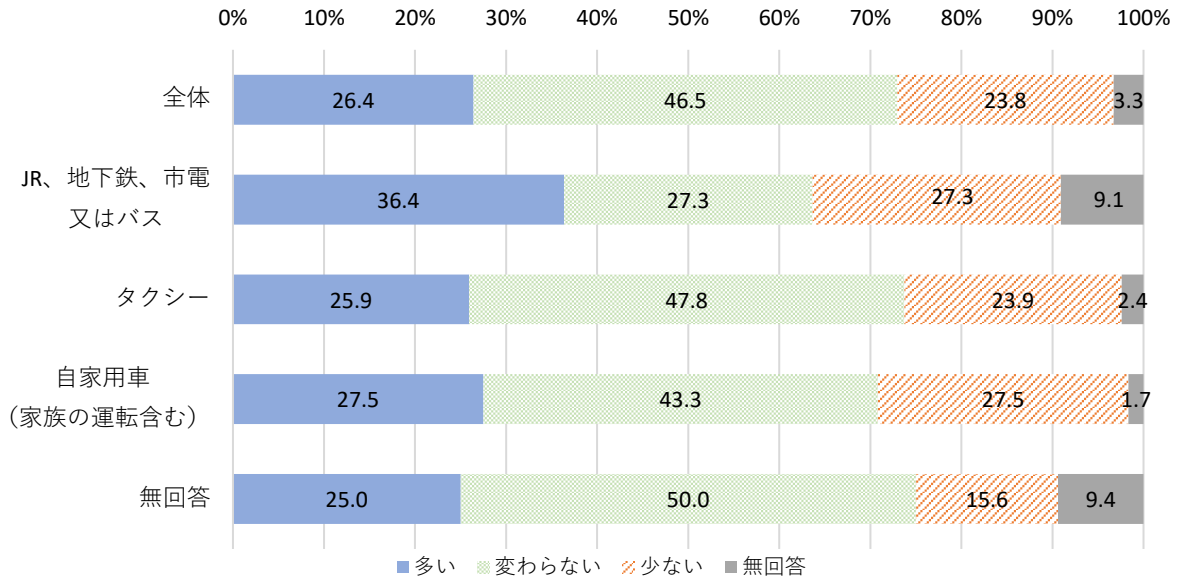


冬期間に主に利用する公共交通機関と、介護タクシー利用の有無について、冬期間に主に「タクシー」を利用すると回答した人の5割は、「介護タクシーを利用する」と回答した。一方、「JR、地下鉄、市電又はバス」で8割以上が、「自家用車(家族の運転含む)」で7割以上が、「介護タクシーを利用しない」と回答した。

1. ⑨ 《⑧で「利用する」と答えた方にお聞きします。》

あなたの冬期間の介護タクシーの利用頻度は、夏期間と比べて多いですか。

(1. ②とのクロス集計)

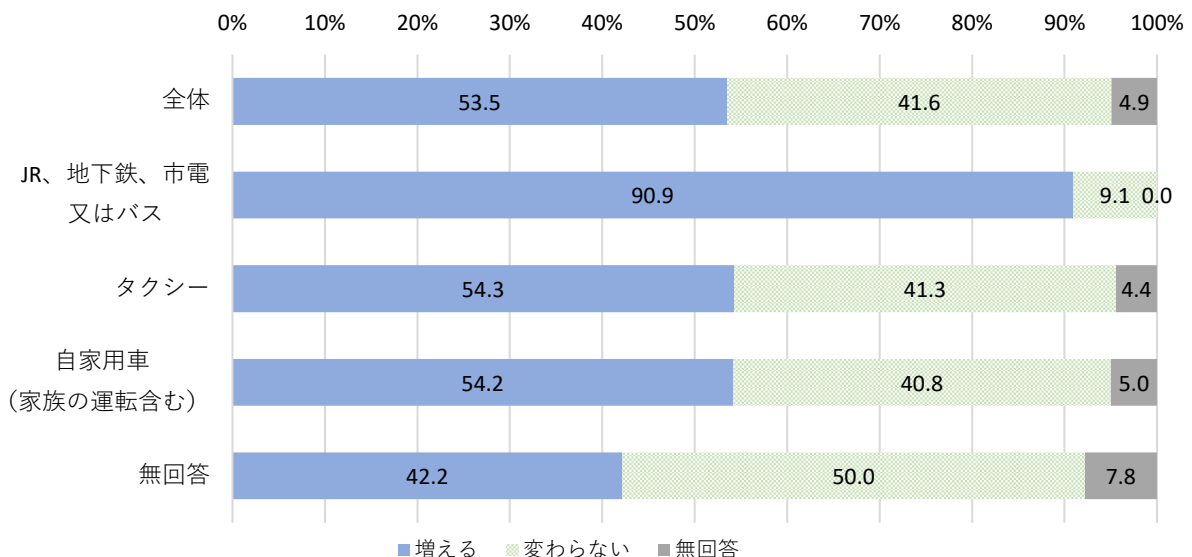


冬期間に主に利用する公共交通機関と、夏期間と比べて冬期間の介護タクシーの利用頻度について、冬期間に主に「JR、地下鉄、市電又はバス」を利用すると回答した人で、冬期間の介護タクシーの利用頻度が夏期間と比べて「多い」と回答した人が36.4%と最も多くなっている。また、「タクシー」と回答した人の47.8%が「変わらない」と回答している。

1. ⑩ 《⑧で「利用する」と答えた方にお聞きします。》

介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、あなたの介護タクシーの利用頻度は増えますか。

(1. ②とのクロス集計)

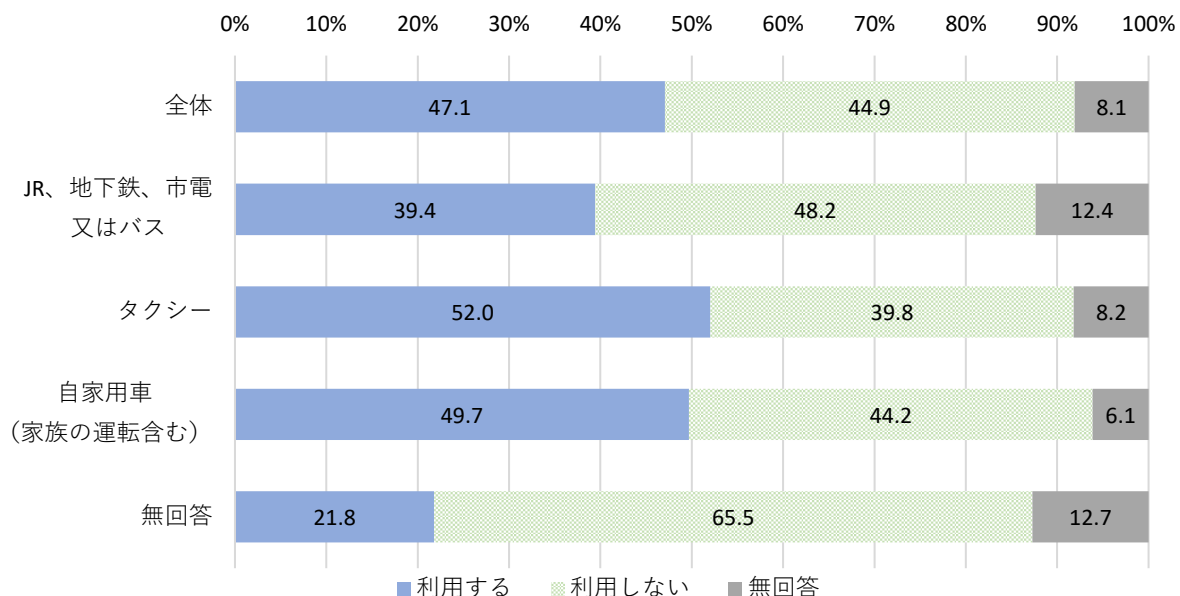


冬期間に主に利用する公共交通機関と、介護タクシーの介助料の一部を助成した場合の利用頻度の増減について、冬期間に主に「JR、地下鉄、市電又はバス」を利用すると回答した人の9割以上が、介助料の一部を助成した場合、「介護タクシーの利用頻度が増える」と回答した。一方、「タクシー」、「自家用車(家族の運転含む)」を利用する人で、「介護タクシーの利用頻度が増える」回答したのは約5割にとどまった。

1. ⑪ 《⑧で「利用しない」と答えた方にお聞きします。》

介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、あなたは介護タクシーを利用しますか。

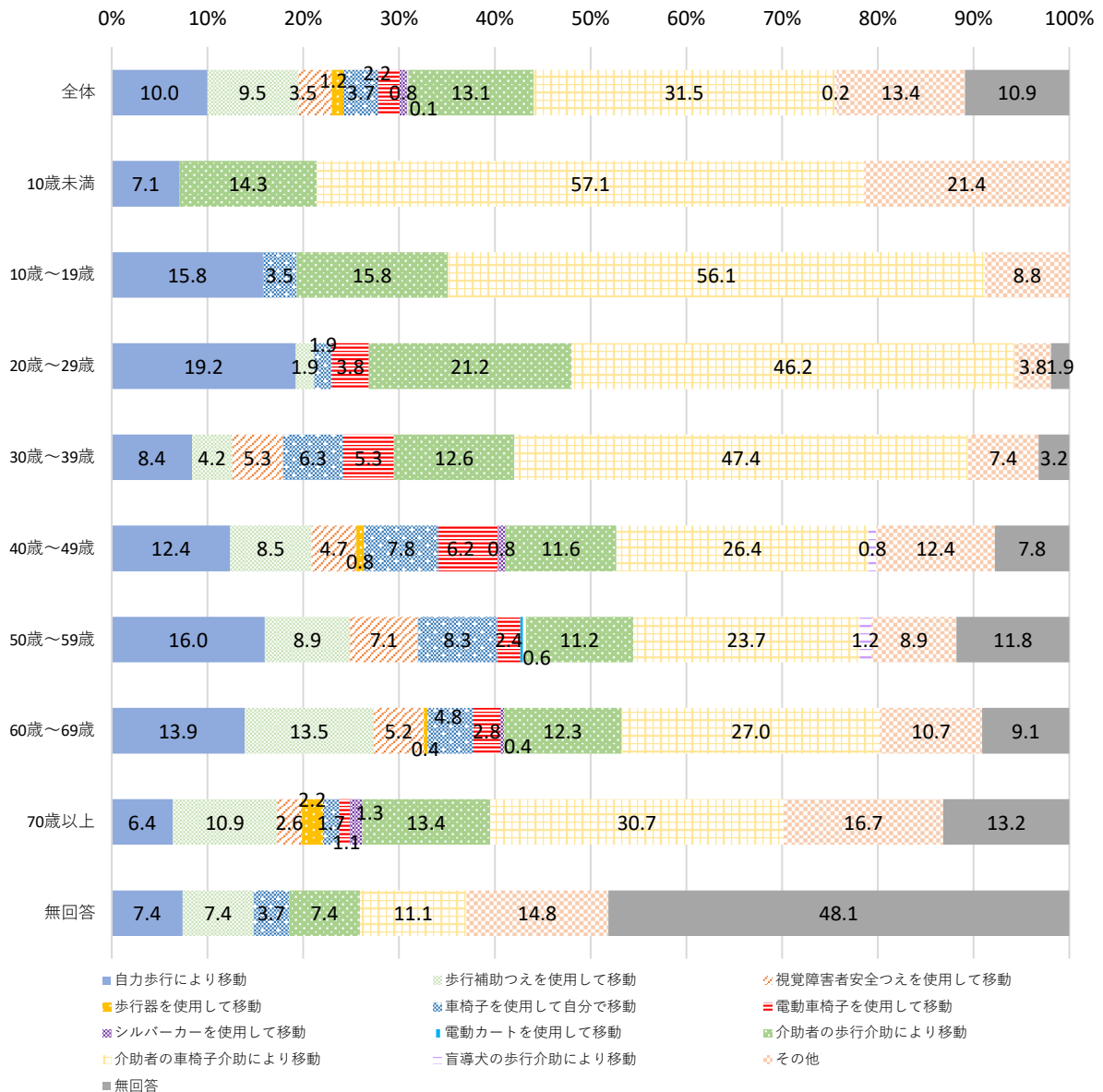
(1. ②とのクロス集計)



冬期間に主に利用する公共交通機関と、現在は介護タクシーを利用していないが、介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、介護タクシーを利用するか否かについて、冬期間に主に「タクシー」を利用すると回答した人で 52.0%と最も多くなっている。次いで、「自家用車(家族の運転含む)」で 49.7%、「JR、地下鉄、市電又はバス」で 39.4%となっている。

4. 調査結果（年齢別クロス集計）

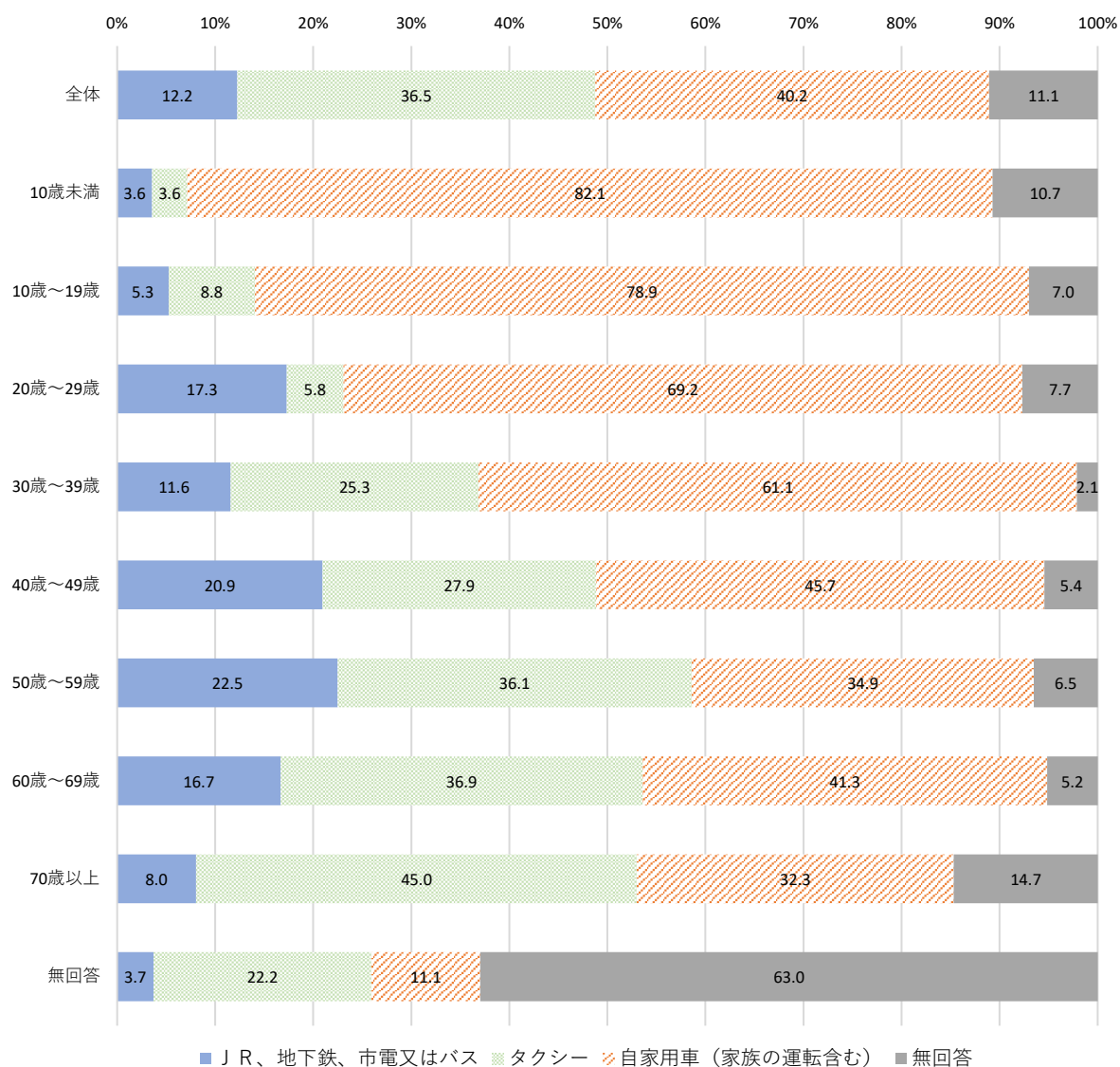
1. ①あなたは冬期間、主にどのような手段で屋外を移動していますか。
最も頻度が高いものの1つに☑をつけてください（公共交通機関、自家用車を除く）。



※票の見やすさを考慮して、「0.0」は省いています。

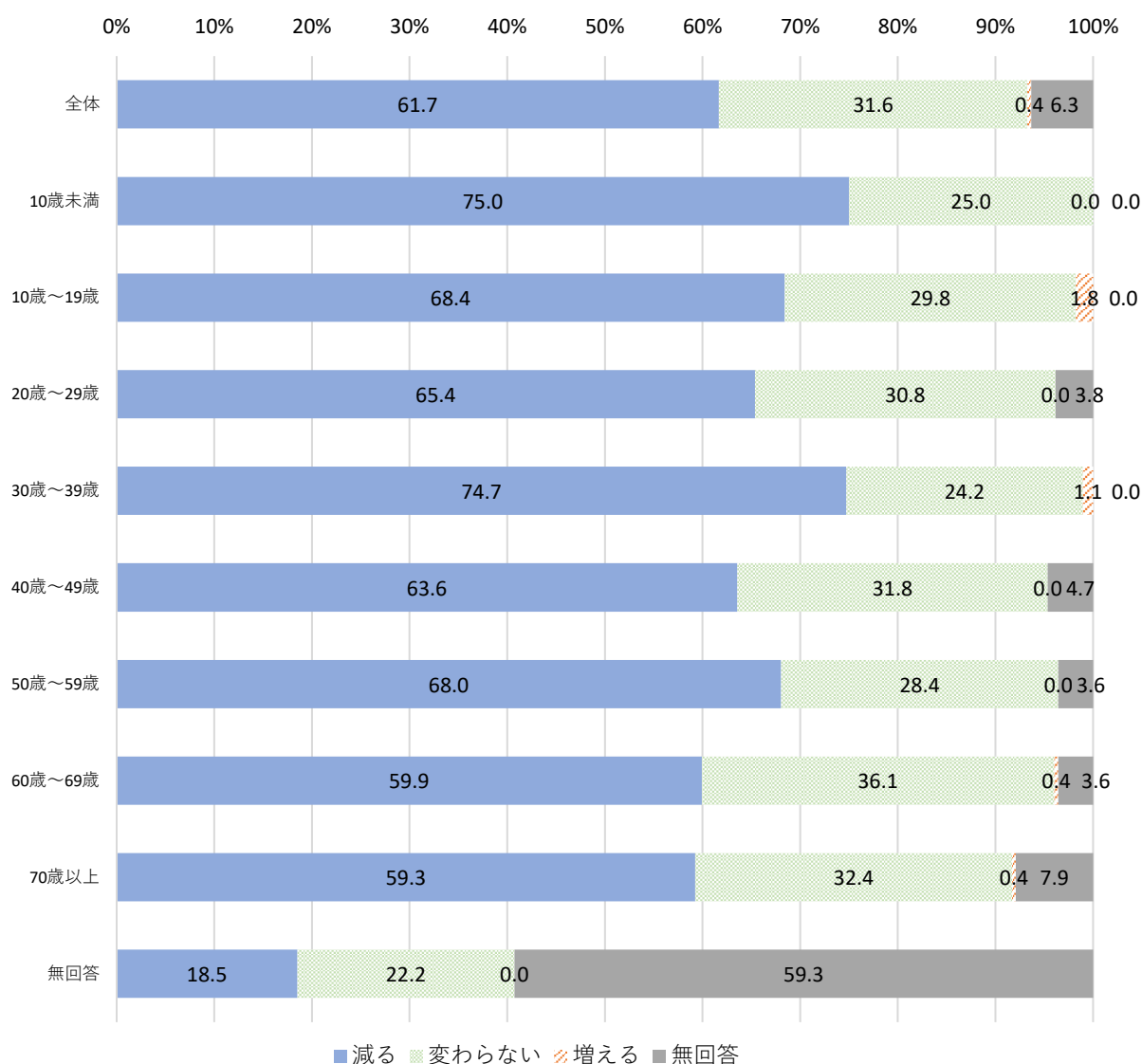
冬期間の屋外での主な移動手段について、「介助者の車椅子介助により移動」は、「10歳未満」で最も高く、57.1%となっている。最も低い《50～59歳》と比べると、33.4ポイントの差となっている。

1. ②あなたが冬期間に主に利用する公共交通機関等の1つに☑をつけてください。



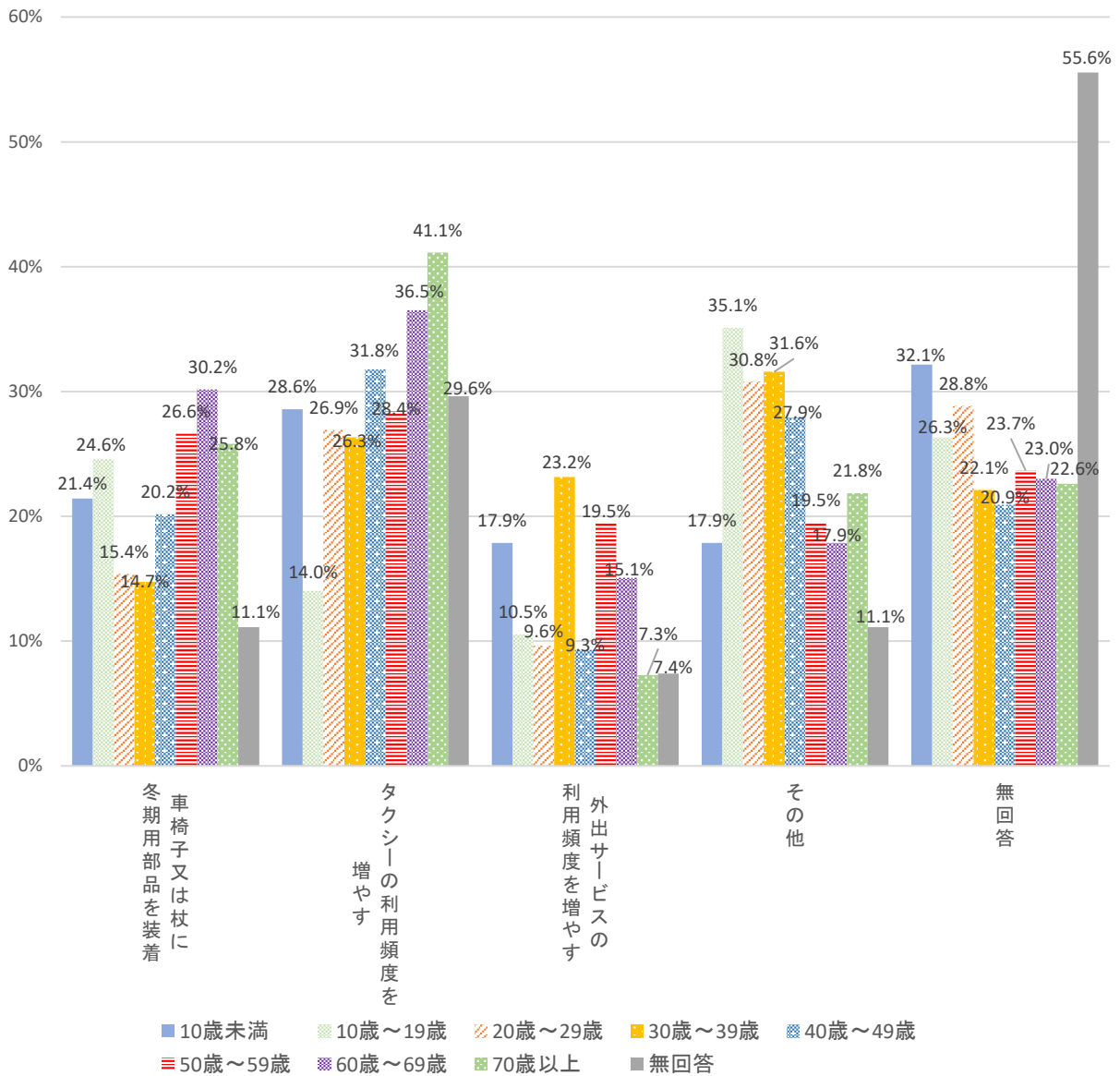
冬期間に主に利用する公共交通機関について、「自家用車（家族の運転含む）」は、「10歳未満」で最も高く、82.1%となっている。最も低い《70歳以上》と比べると、49.8ポイントの差となっている。

1. ③あなたの冬期間の外出頻度は、夏期間と比べて減りますか。



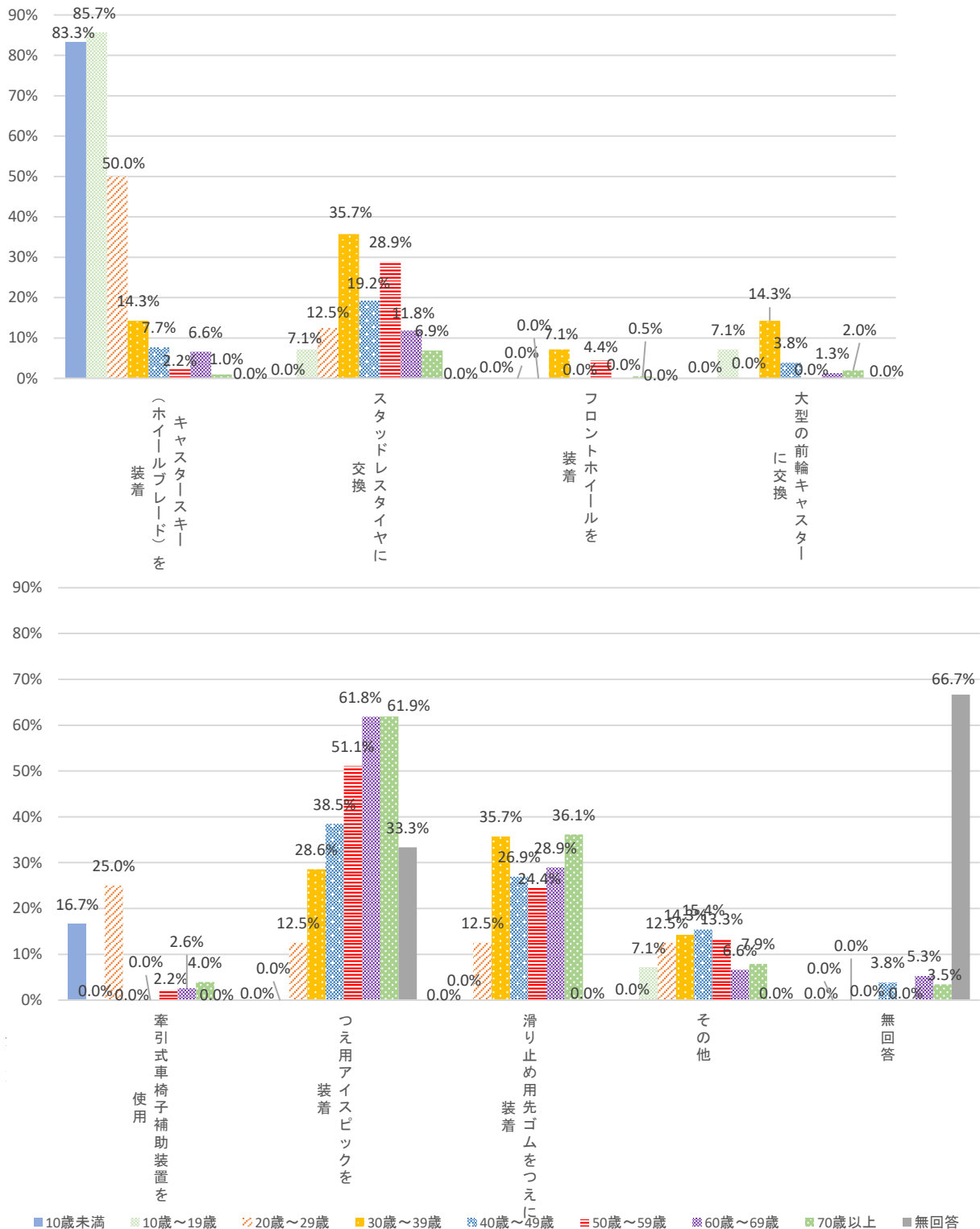
夏期間と比べた冬期間の外出頻度について、「減る」は、《10歳未満》で最も高く、75.0%となっている。次いで、《30歳～39歳》で74.7%、《10歳～19歳》で68.4%、《50歳～59歳》で68.0%となっている。

1. ④あなたがやっている、冬道移動の対策として該当するもの全てに☑をつけてください。



自身が行っている冬道移動の対策について、「タクシーの利用頻度を増やす」は、「70歳以上」で最も高く、41.1%となっている。最も低い《10歳～19歳》と比べると、27.1ポイントの差となっている。

1. ⑤ 《④で「車椅子又は杖に冬期用部品を装着」と答えた方にお聞きます。》
 あなたが実際に使用している冬期用部品全てに☑をつけてください。

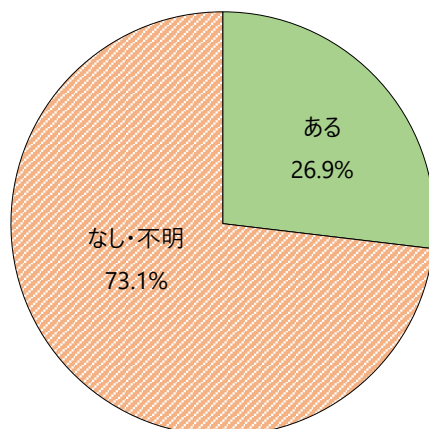


実際に使用している冬期用部品について、「キャスタースキー (ホイールブレード) を装着」は、《10歳～19歳》で最も高く、85.7%となっている。最も低い《70歳以上》と比べると、84.7ポイントの差となっている。

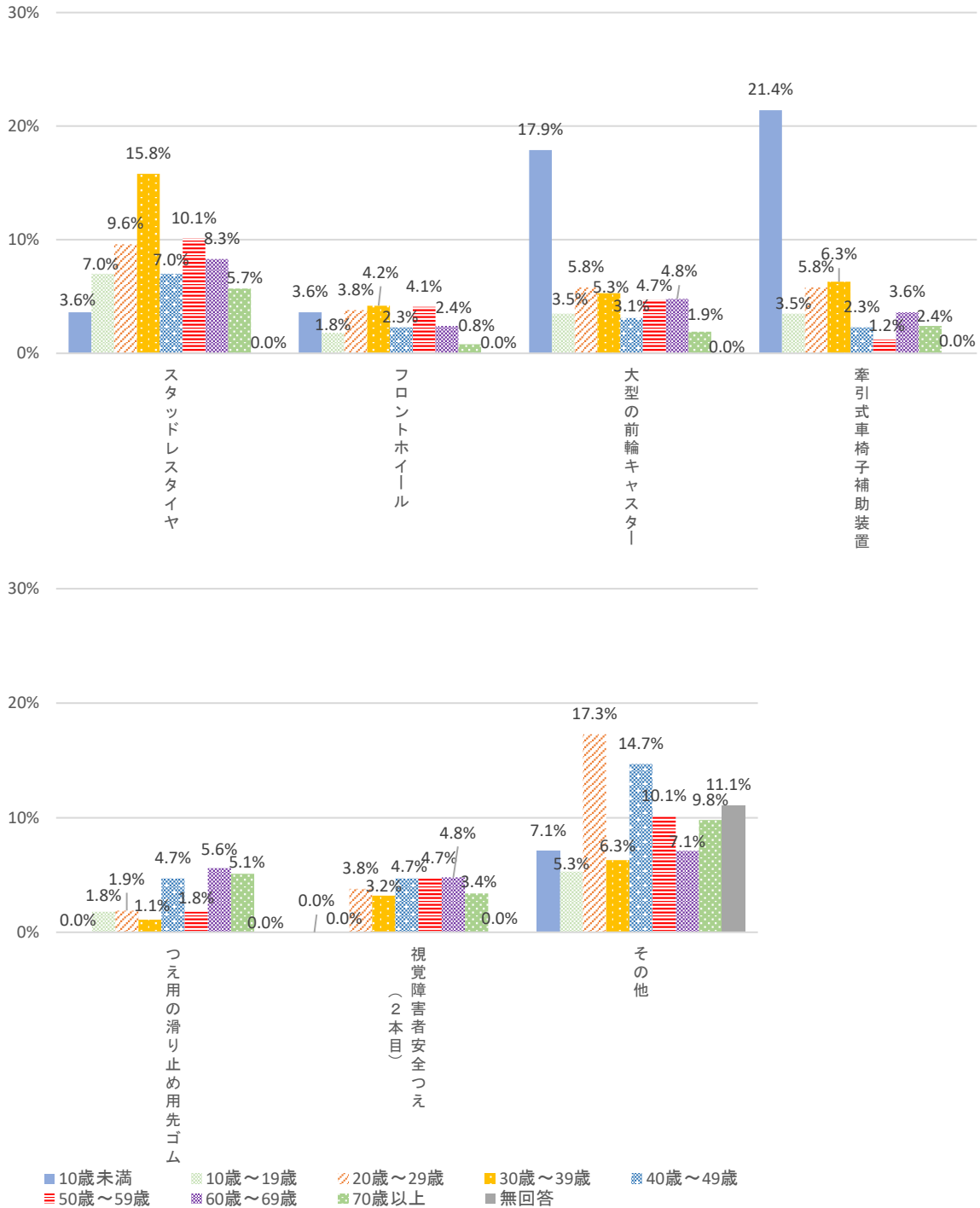
1. ⑥購入を検討したが、高額であることを理由に断念した冬期用部品はありますか。
該当する項目全てに☑をつけてください。

※一つでも☑と回答した人を「ある」。何も、☑をつけなかった人を「なし・不明」として
います。

対象者全体(N=1,592)



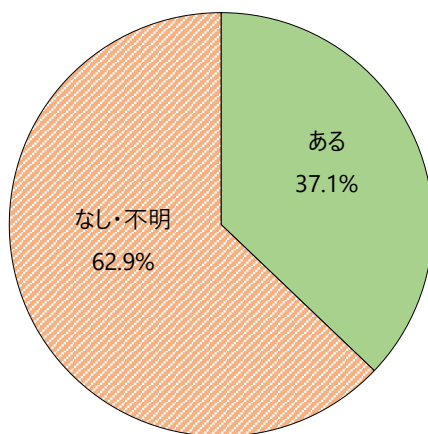
※一つでも☑と回答した人で、年齢とのクロス集計をしています。



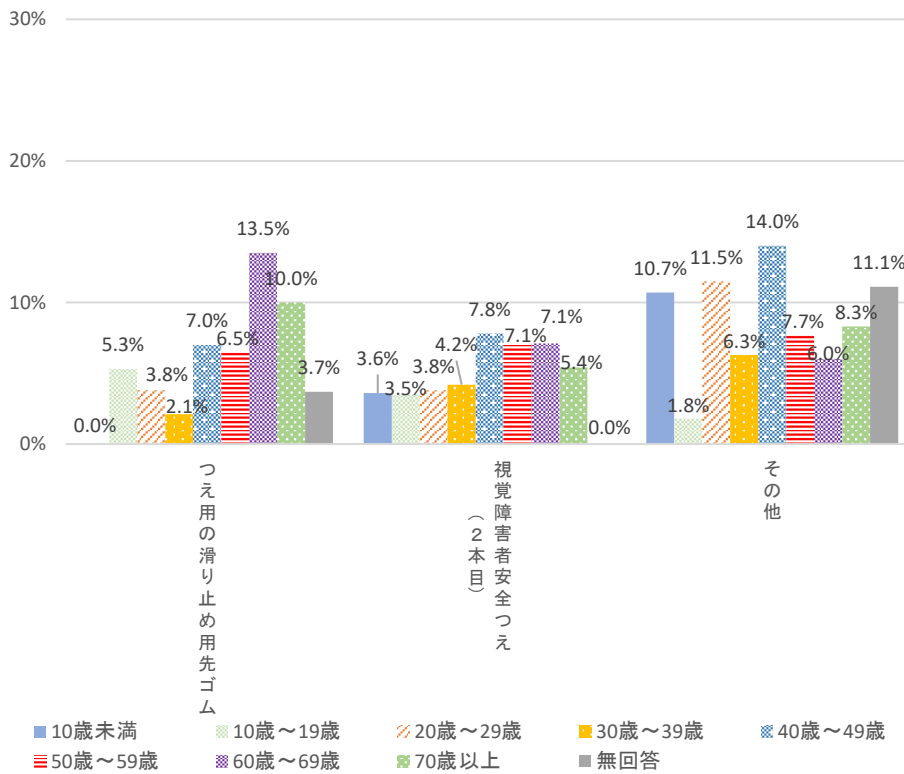
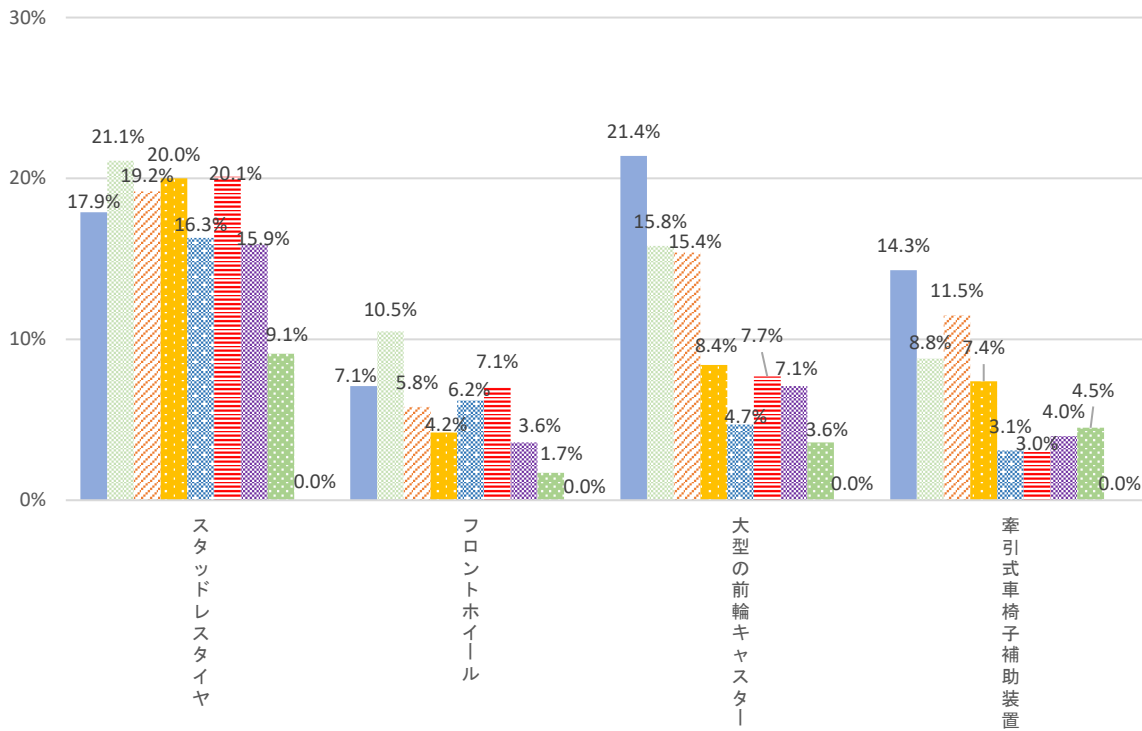
購入を検討したが、高額であることを理由に断念した冬期用部品について、「スタッドレスタイヤ」は、《30～39 歳》で最も高く、15.8%となっている。最も低い《10 歳未満》と比べると、12.2 ポイントの差となっている。また、「牽引式車椅子補助装置」は、《10 歳未満》で最も高く、21.4%となっている。最も低い《50～59 歳》と比べると、20.2 ポイントの差となっている。

1. ⑦ 購入費補助があれば購入を検討したい冬期用部品全てに☑をつけてください。
※一つでも☑と回答した人を「ある」。何も、☑をつけなかった人を「なし・不明」として
います。

対象者全体(N=1,592)

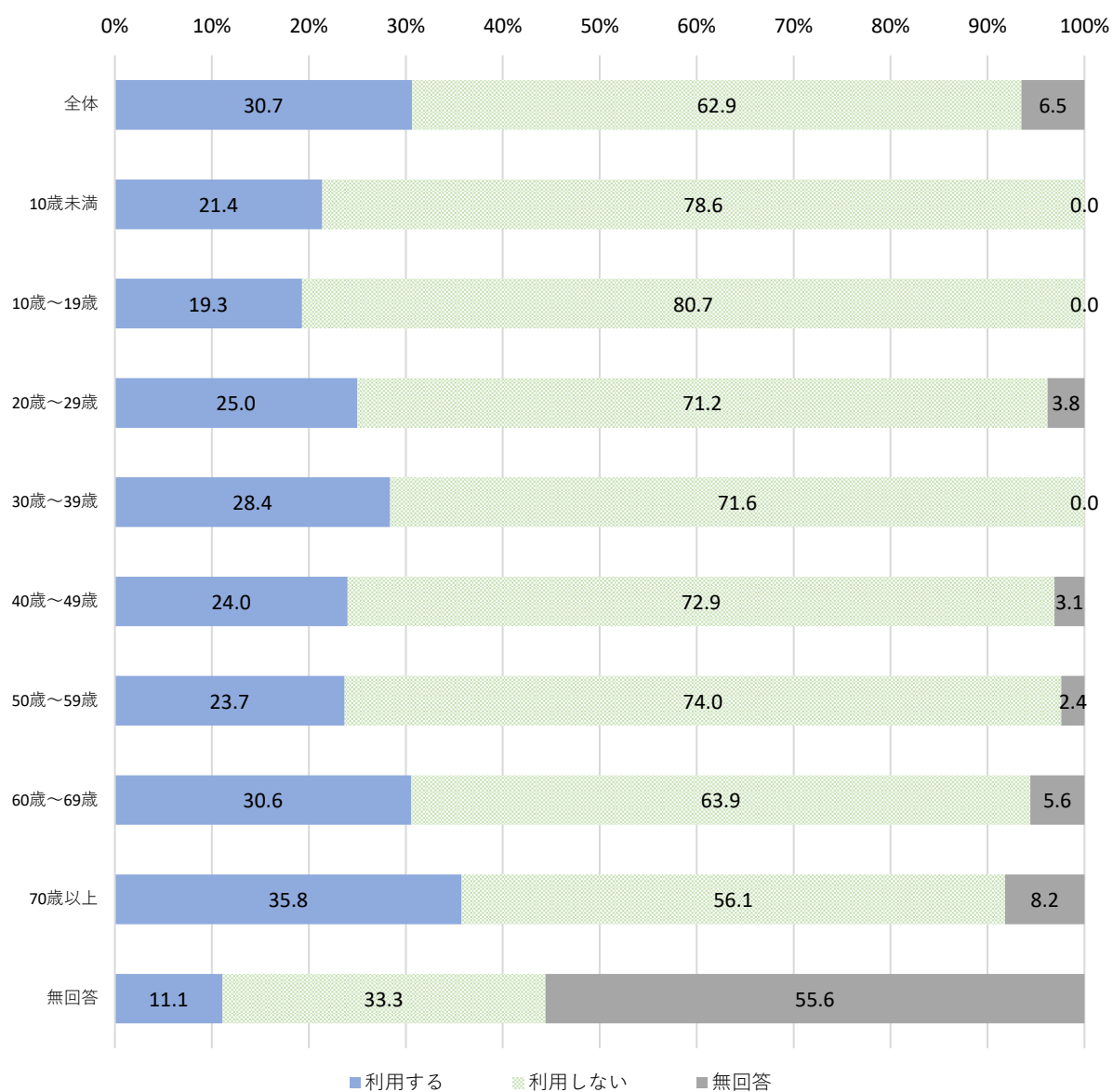


※一つでも☑と回答した人で、年齢とのクロス集計をしています。



購入費補助があれば購入を検討したい冬期用部品について、「スタッドレスタイヤ」は、《10歳～19歳》で最も高く、21.1%となっている。最も低い《70歳以上》と比べると、12.1ポイントの差となっている。また、「大型前輪キャスター」は、《10歳未満》で最も高く、21.4%となっている。最も低い《70歳以上》と比べると、17.8ポイントの差となっている。

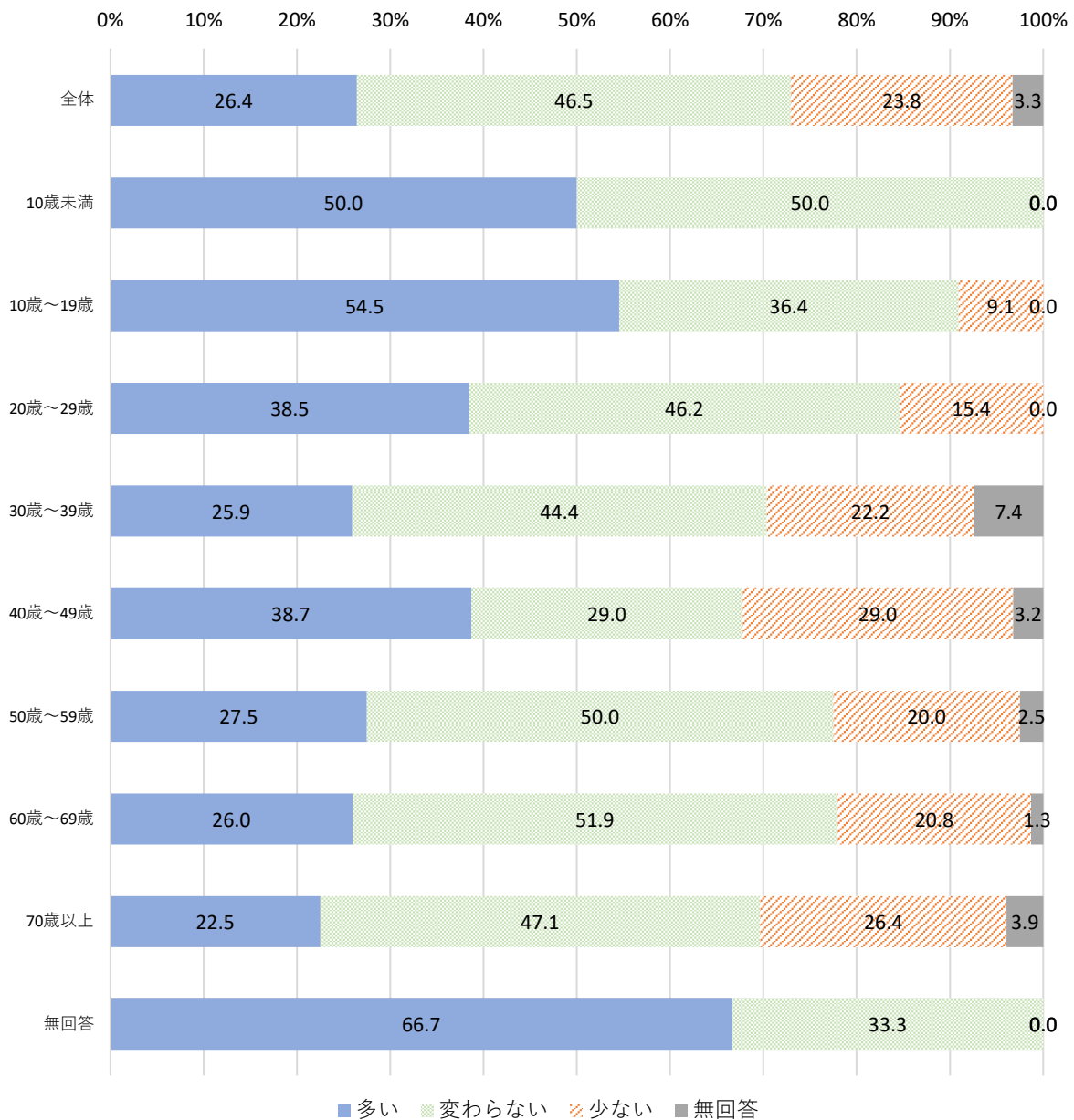
1. ⑧あなたは介護タクシーを利用することがありますか。



介護タクシーを利用することがあるかについて、「利用する」は、「70歳以上」で最も高く、35.8%となっている。最も低い《10～19歳》と比べると、16.5ポイントの差となっている。

1. ⑨ 《⑧で「利用する」と答えた方にお聞きします。》

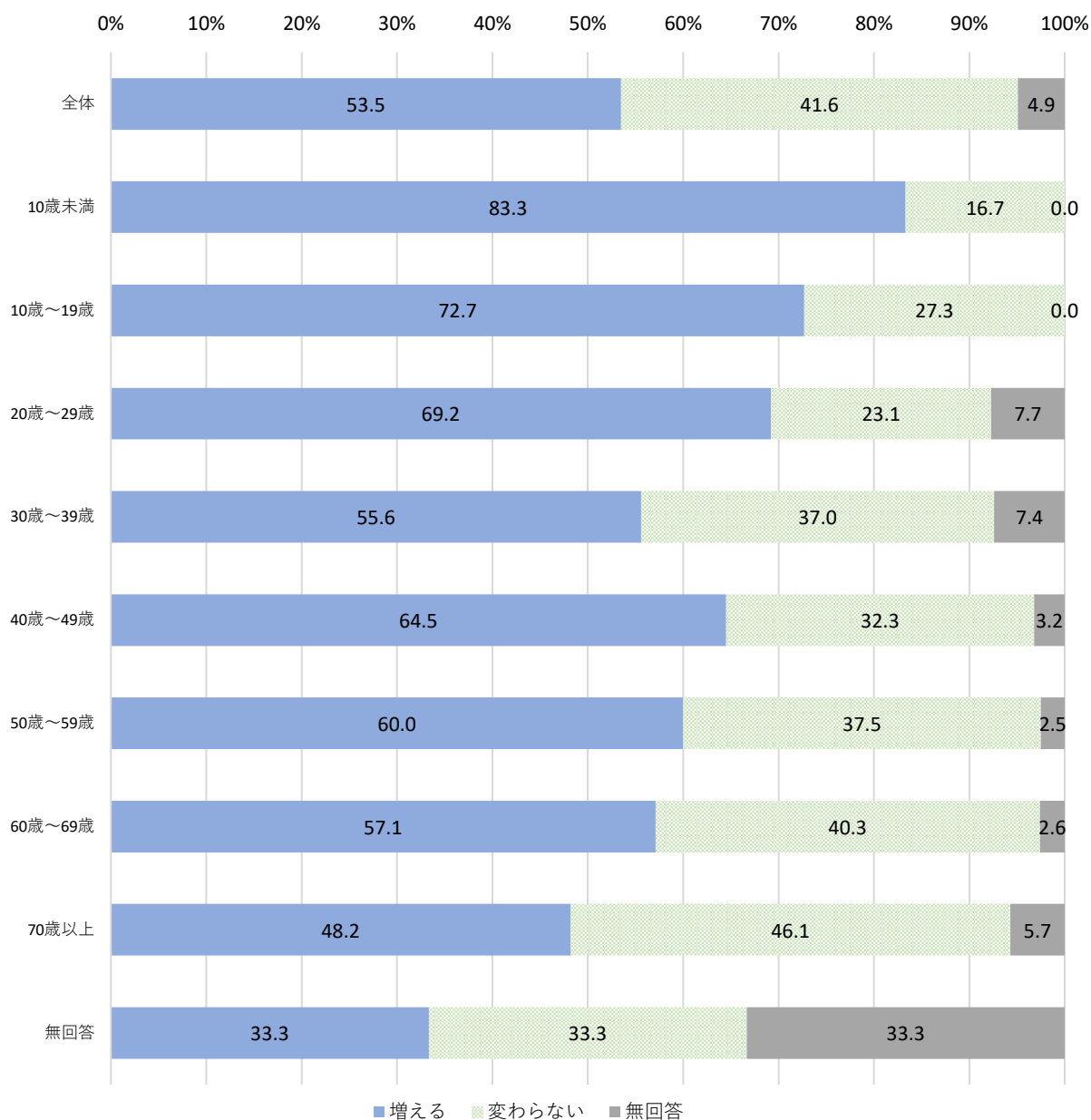
あなたの冬期間の介護タクシーの利用頻度は、夏期間と比べて多いですか。



夏期間と比べた、冬期間の介護タクシーの利用頻度について、「多い」は、《10～19歳》で最も高く、54.5%となっている。最も低い《70歳以上》と比べると、32.0ポイントの差となっている。

1. ⑩ 《⑧で「利用する」と答えた方にお聞きします。》

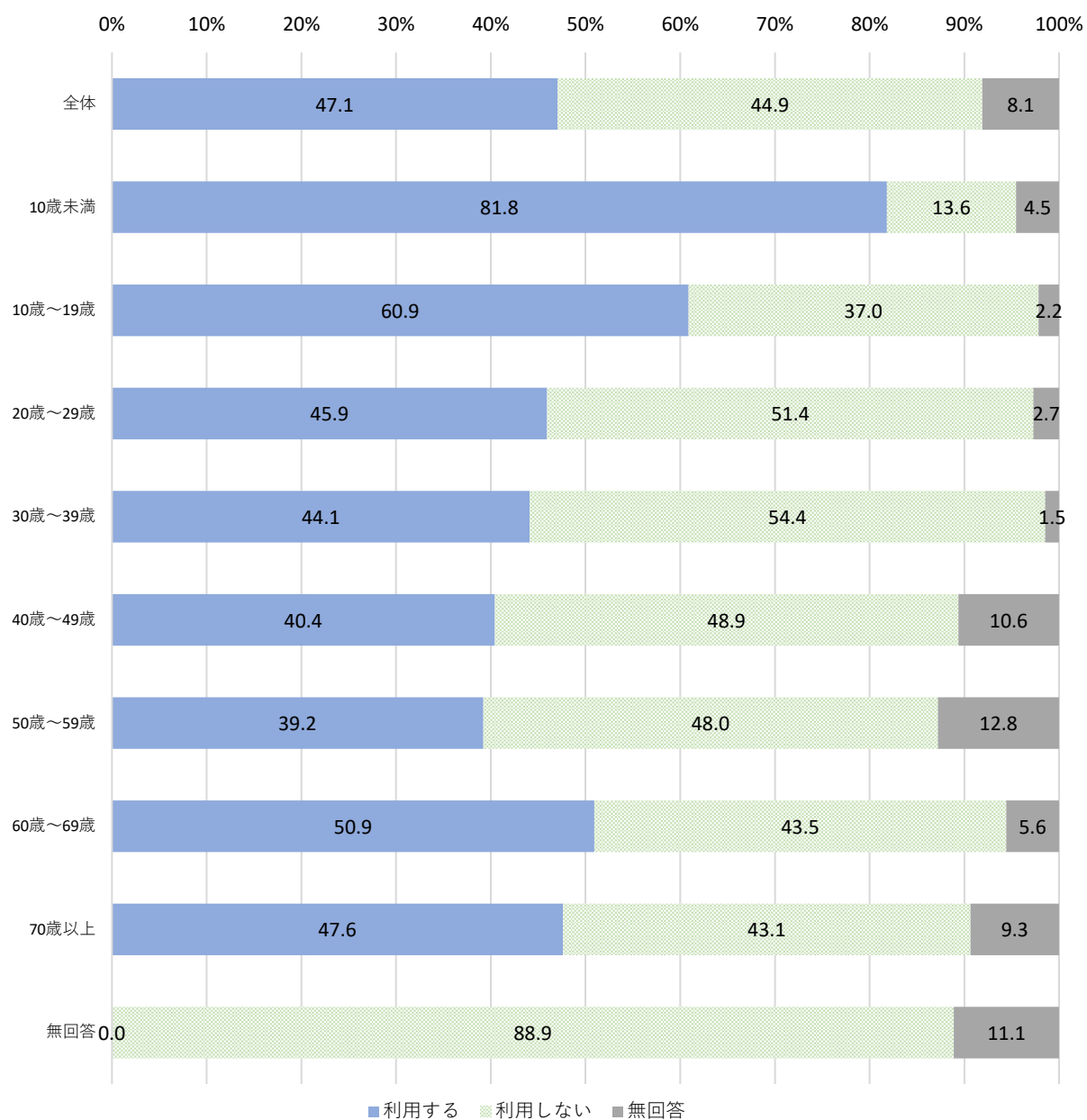
介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、あなたの介護タクシーの利用頻度は増えますか。



介護タクシーの介助料を一部助成した場合の介護タクシーの利用頻度について、「増える」は、《10歳未満》で最も高く、83.3%となっている。最も低い《70歳以上》と比べると、35.1ポイントの差となっている。

1. ⑪ 《⑧で「利用しない」と答えた方にお聞きします。》

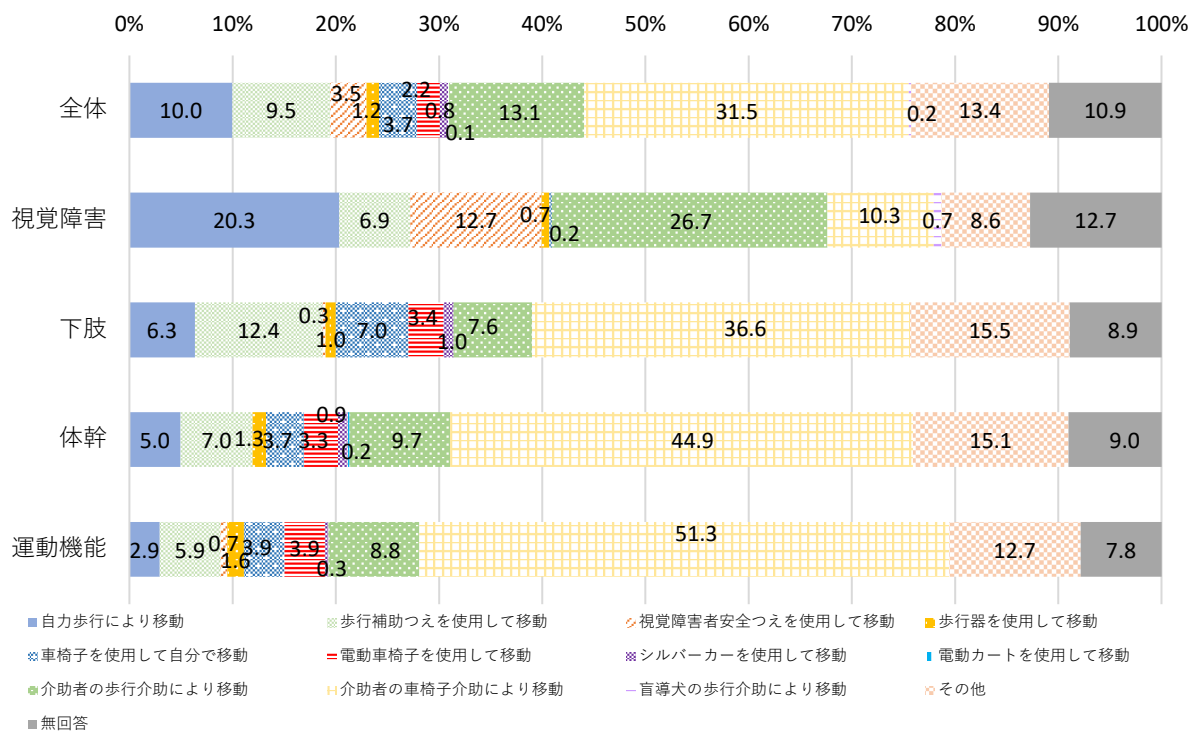
介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、あなたは介護タクシーを利用しますか。



介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、介護タクシーを利用するか否かについて、「利用する」は、《10歳未満》で最も高く、81.8%となっている。次いで、《10歳～19歳》60.95、《60歳～69歳》50.9%となっている。

5. 調査結果（身体障害者手帳区分別クロス集計）

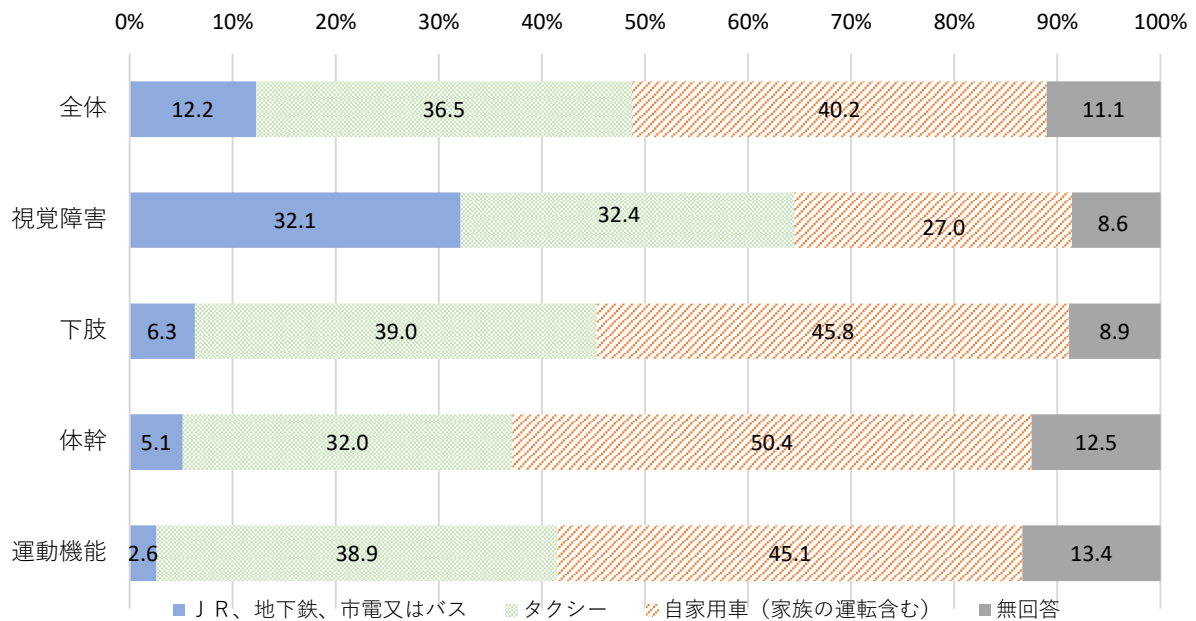
1. ①あなたは冬期間、主にどのような手段で屋外を移動していますか。
最も頻度が高いもの1つに☑をつけてください（公共交通機関、自家用車を除く）。



※票の見やすさを考慮して、「0.0」は省いています。

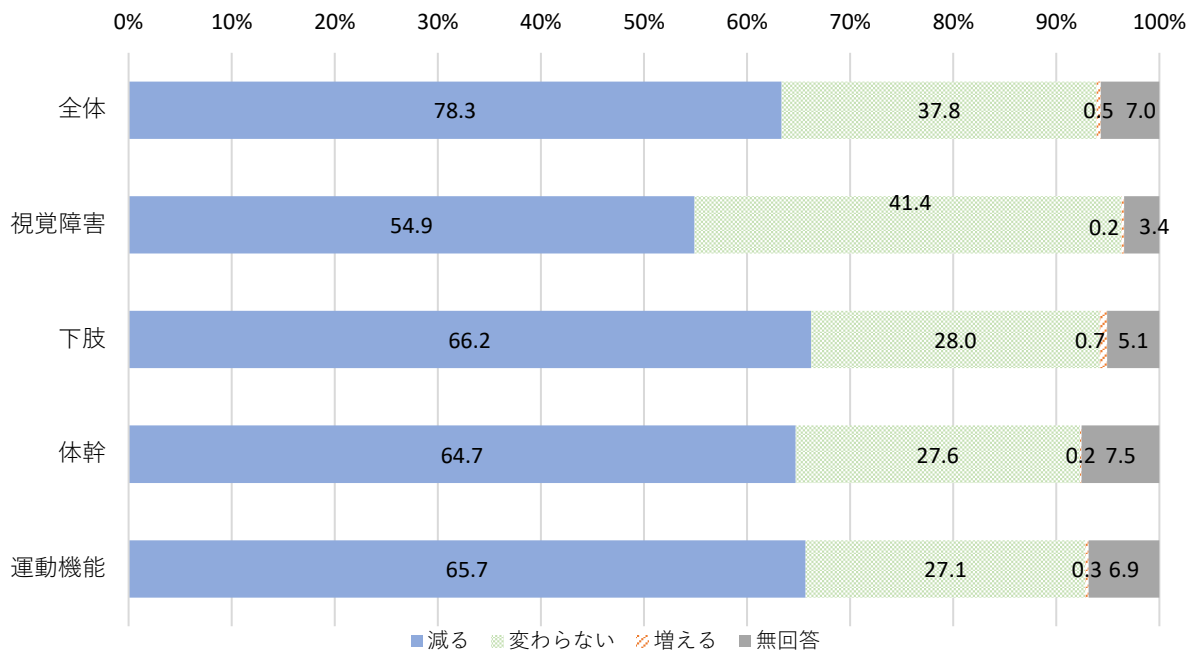
冬期間の屋外での主な移動手段について、「介助者の車椅子介助により移動」は、《肢体不自由（運動機能障害（移動機能））》で最も高く、51.3%となっている。最も低い《視覚障害》と比べると、41.0ポイントの差となっている。

1. ②あなたが冬期間に主に利用する公共交通機関等の1つに☑をつけてください。



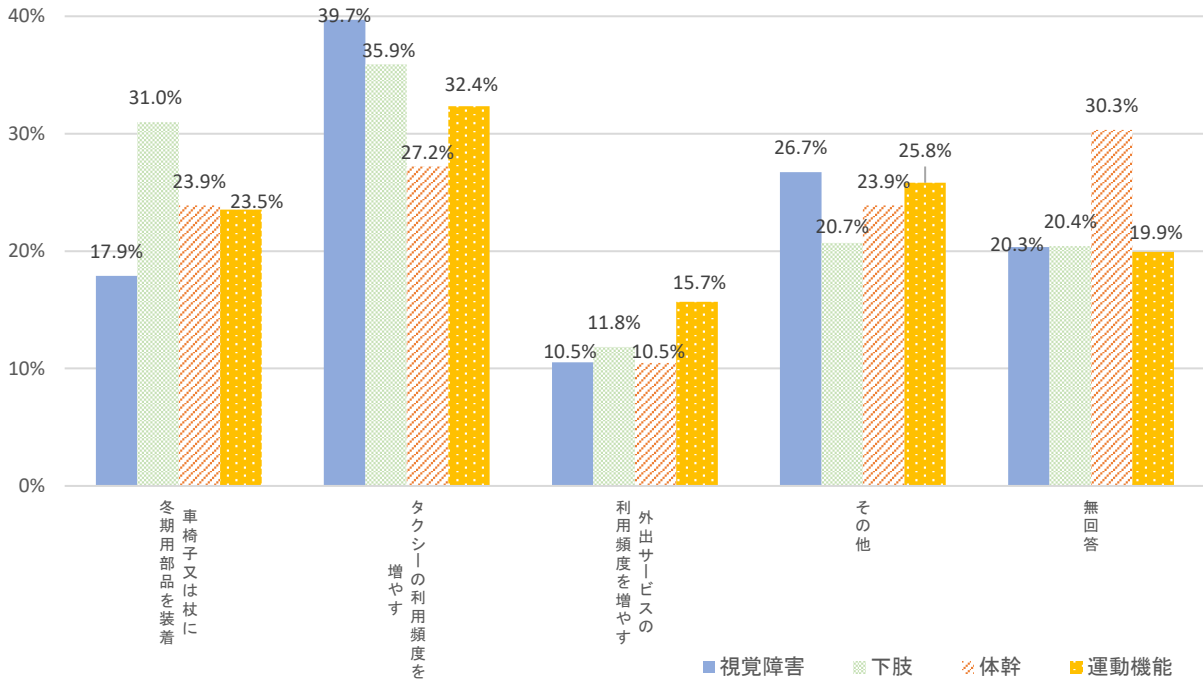
冬期間に主に利用する公共交通機関について、《視覚障害》では「JR、地下鉄、市電又はバス」が最も多く、32.1%となっている。《肢体不自由（下肢・体幹・運動機能）》では、「自家用車（家族の運転含む）」が最も高く、それぞれ45.8%、50.4%、45.1%となっている。

1. ③あなたの冬期間の外出頻度は、夏期間と比べて減りますか。



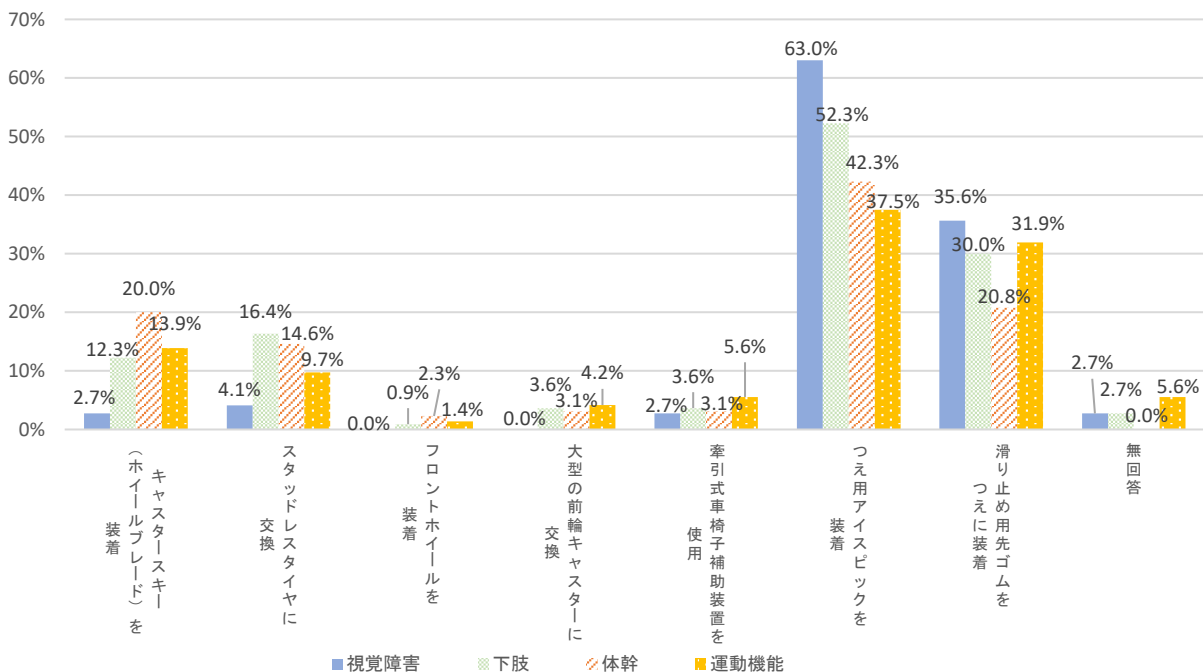
夏期間と比べた冬期間の外出頻度について、「減る」は《肢体不自由（下肢）》で最も高く、66.2%となっている。次いで、《肢体不自由（運動機能障害（移動機能））》65.7%、《肢体不自由（体幹）》64.7%、《視覚障害》54.9%となっている。

1. ④あなたがやっている、冬道移動の対策として該当するもの全てに☑をつけてください。



冬期間に主に利用する公共交通機関について、「タクシーの利用頻度を増やす」は《視覚障害》が最も多く、39.7%となっている。最も低い《肢体不自由（体幹）》と比べると、12.5ポイントの差となっている。

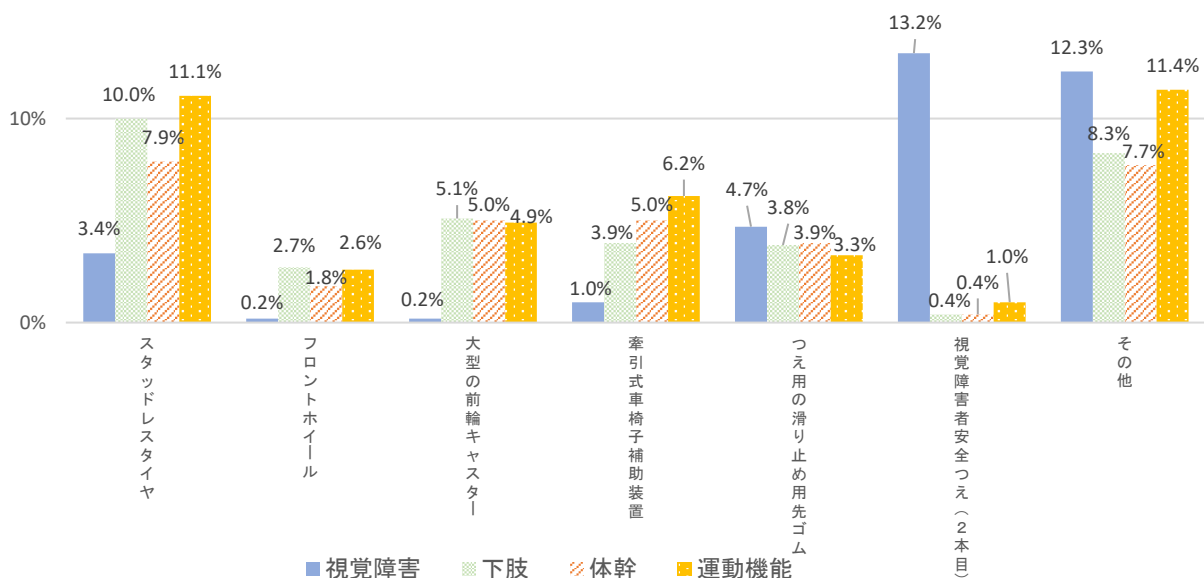
1. ⑤《④で「車椅子又は杖に冬期用部品を装着」と答えた方にお聞きします。》
あなたが実際に使用している冬期用部品全てに☑をつけてください。



実際に使用している冬期用部品について、「つえ用アイスピックを装着」は《視覚障害》で最も高く、63.0%となっている。次いで、《肢体不自由（下肢）》52.3%、《肢体不自由（体幹）》42.3%、《肢体不自由（運動機能障害（移動機能））》37.5%となっている。

1. ⑥購入を検討したが、高額であることを理由に断念した冬期用部品はありますか。
該当する項目全てに☑をつけてください。

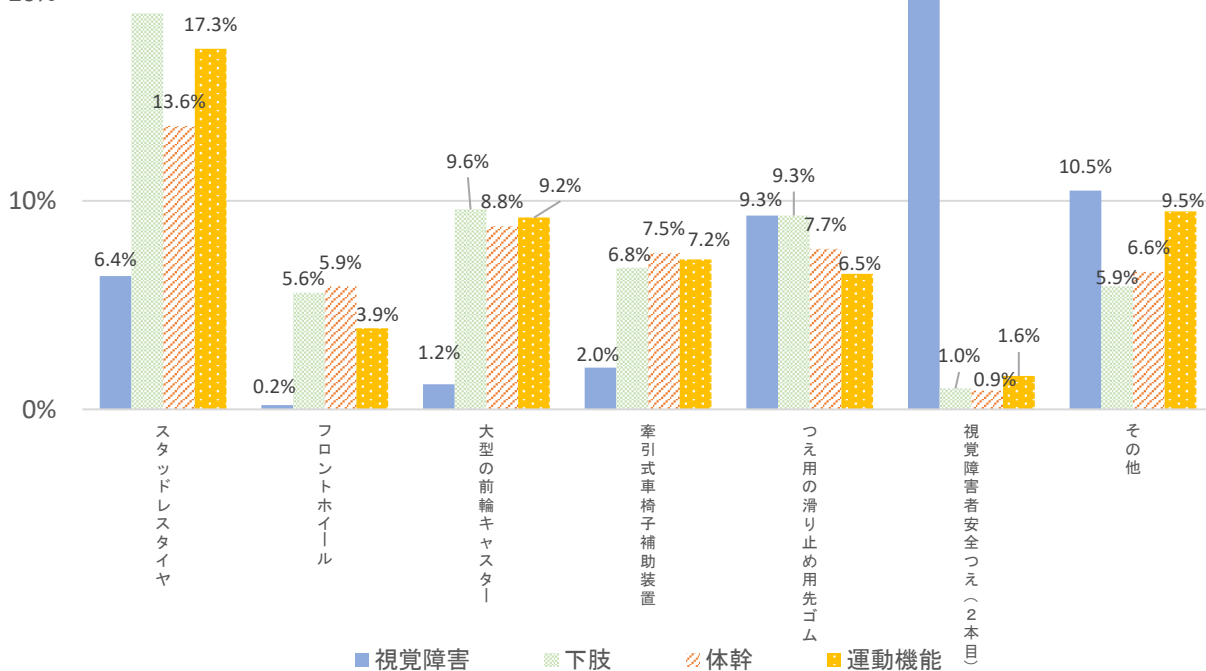
20%



購入を検討したが、高額であることを理由に断念した冬期用部品について、「スタッドレスタイヤ」は、《肢体不自由（運動機能障害（移動機能））》で最も高く、11.1%となっている。最も低い《視覚障害》と比べると、7.7ポイントの差となっている。

1. ⑦購入費補助があれば購入を検討したい冬期用部品全てに☑をつけてください。

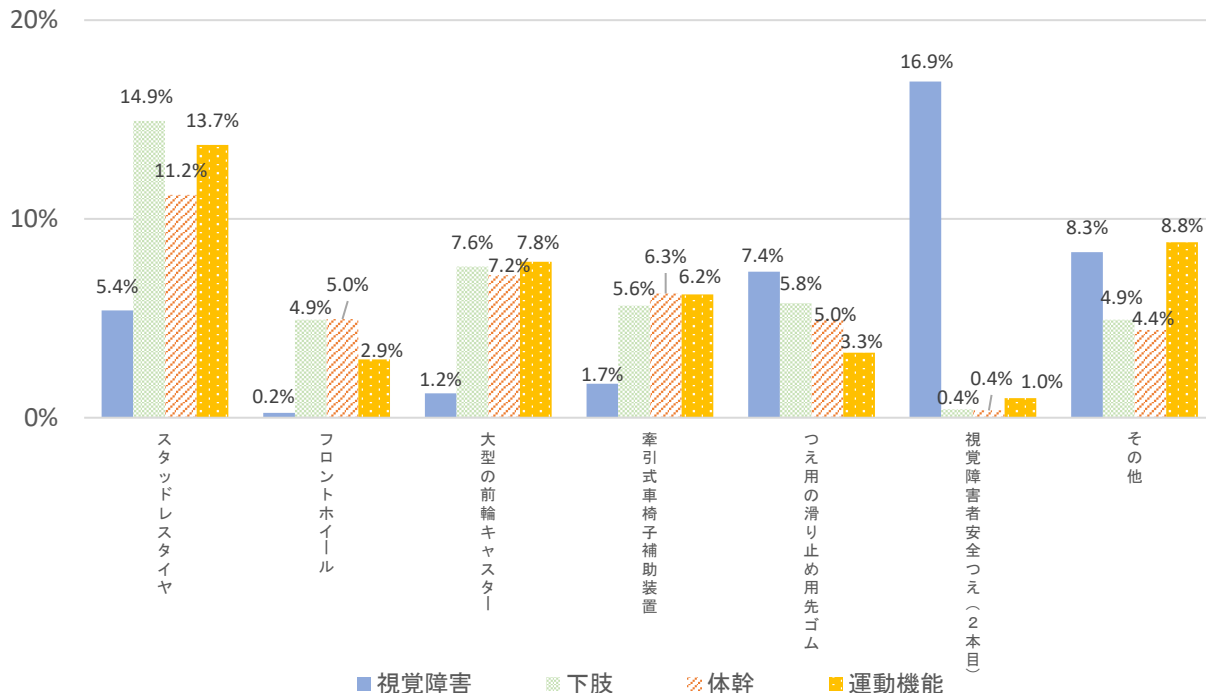
20%



購入費補助があれば購入を検討したい冬期用部品について、「スタッドレスタイヤ」は、《肢体不自由（運動機能障害（移動機能））》で最も高く、17.3%となっている。最も低い《視覚障害》と比べると、10.9ポイントの差となっている。

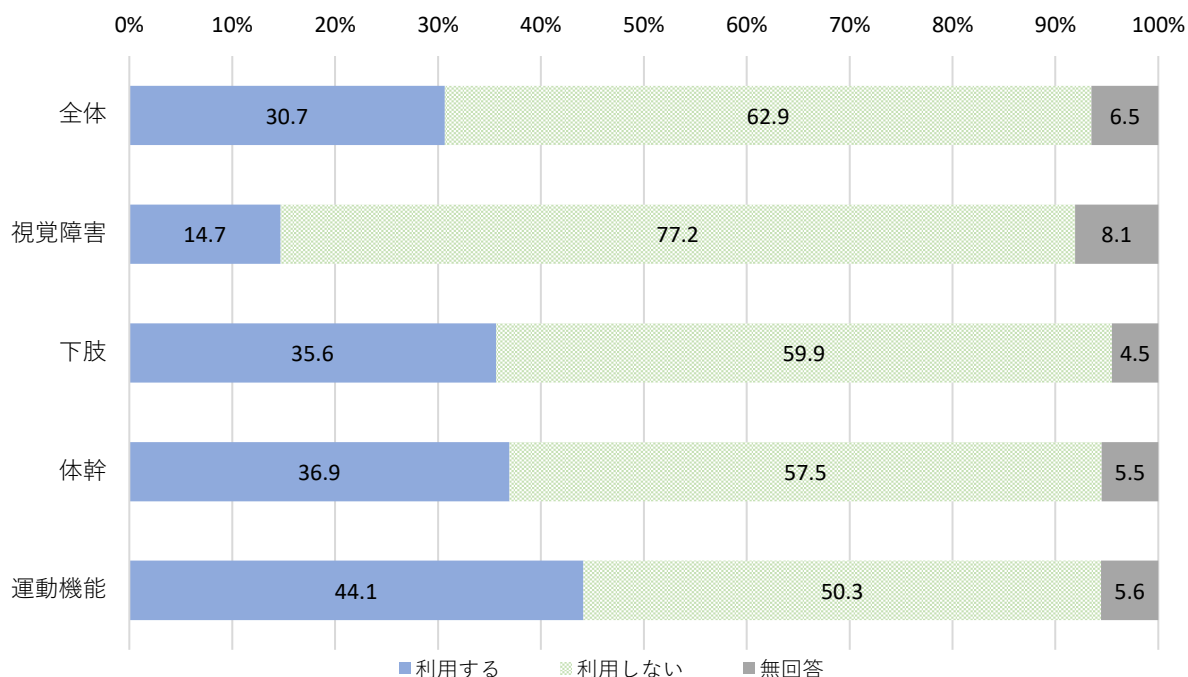
《1. ④で「1 車椅子又は杖に冬期用部品を装着」と選択をしていない回答者の方》

1. ⑦購入費補助があれば購入を検討したい冬期用部品全てに☑をつけてください。



1. ④で「1 車椅子又は杖に冬期用部品を装着」と選択をしていない回答者の方で、購入費補助があれば購入を検討したい冬期用部品について、「スタッドレスタイヤ」は、《肢体不自由（下肢）》で最も高く、14.9%となっている。最も低い《視覚障害》と比べると、9.5ポイントの差となっている。

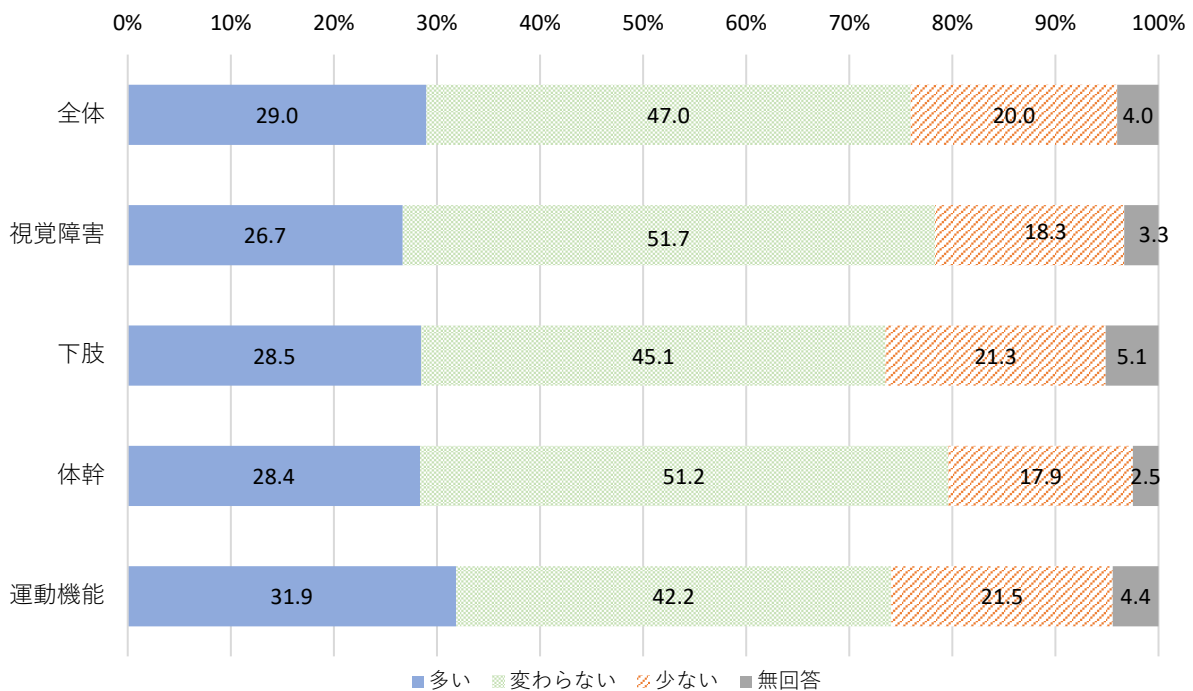
1. ⑧あなたは介護タクシーを利用することがありますか。



介護タクシーを利用することがあるかについて、「利用する」は、《肢体不自由（運動機能障害（移動機能））》で最も高く、44.1%となっている。最も低い《視覚障害》と比べると、29.4ポイントの差となっている。

1. ⑨ 《⑧で「利用する」と答えた方にお聞きします。》

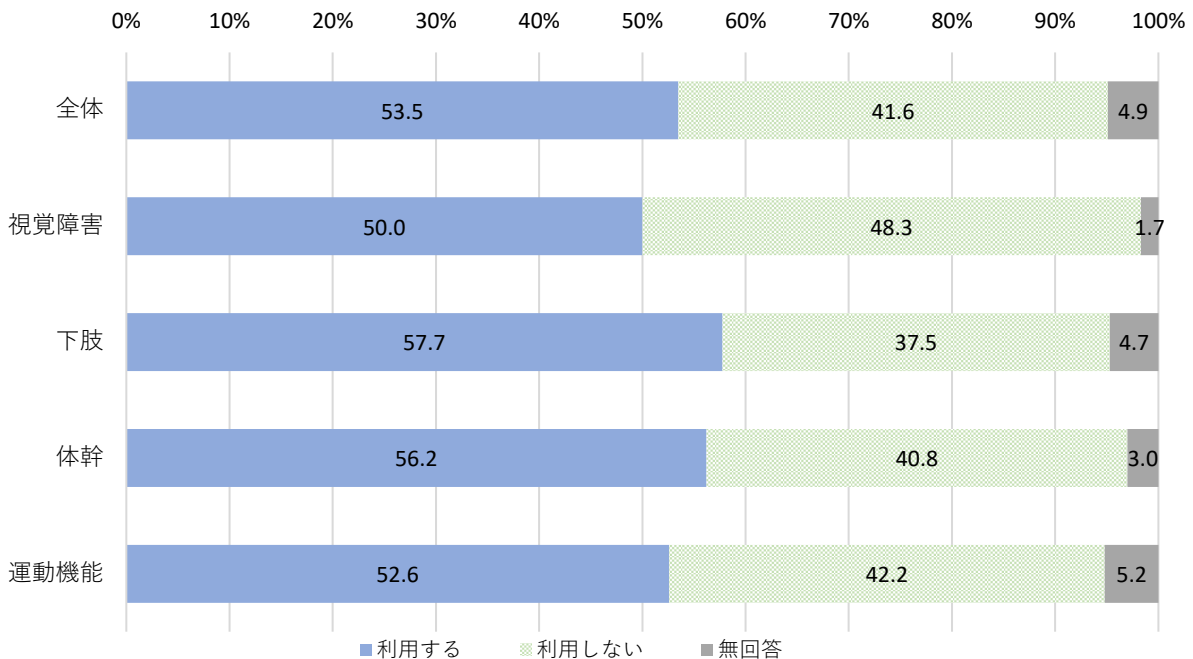
あなたの冬期間の介護タクシーの利用頻度は、夏期間と比べて多いですか。



夏期間と比べた、冬期間の介護タクシーの利用頻度について、「多い」は、《肢体不自由（運動機能障害（移動機能））》で最も高く、31.9%となっている。最も低い《視覚障害》と比べると、5.2ポイントの差となっている。

1. ⑩ 《⑧で「利用する」と答えた方にお聞きします。》

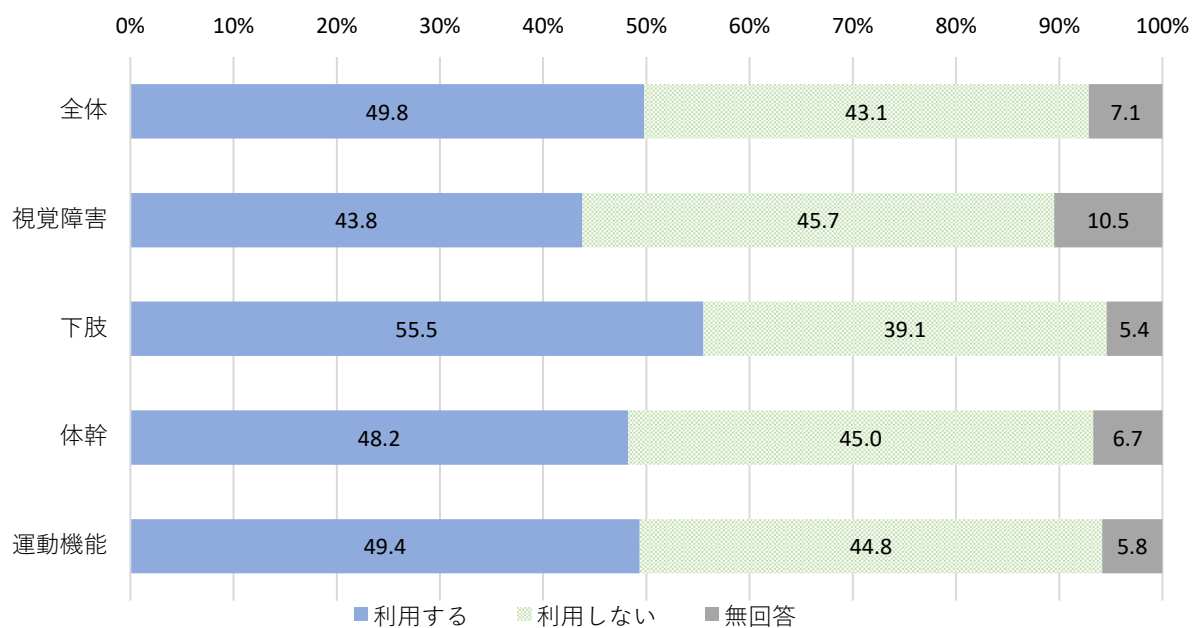
介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、あなたの介護タクシーの利用頻度は増えますか。



介護タクシーの介助料を一部助成した場合、介護タクシーの利用頻度について、「増える」は、全ての障害者手帳区分で5割以上となっている。

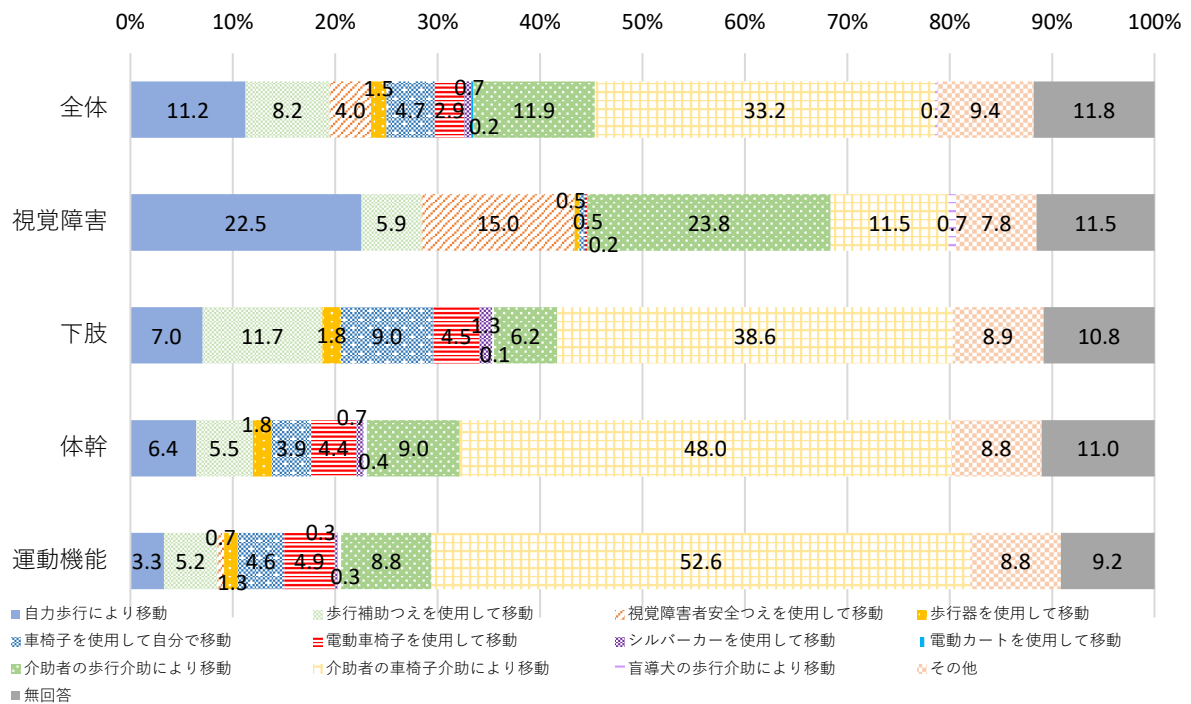
1. ⑪ 《⑧で「利用しない」と答えた方にお聞きします。》

介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、あなたは介護タクシーを利用しますか。



介護タクシーの介助料の一部を助成した場合、介護タクシーを利用するか否かについて、「利用する」は《肢体不自由（下肢）》で最も高く、55.5%となっている。《視覚障害》では、「利用しない」が「利用する」を若干上回っている。

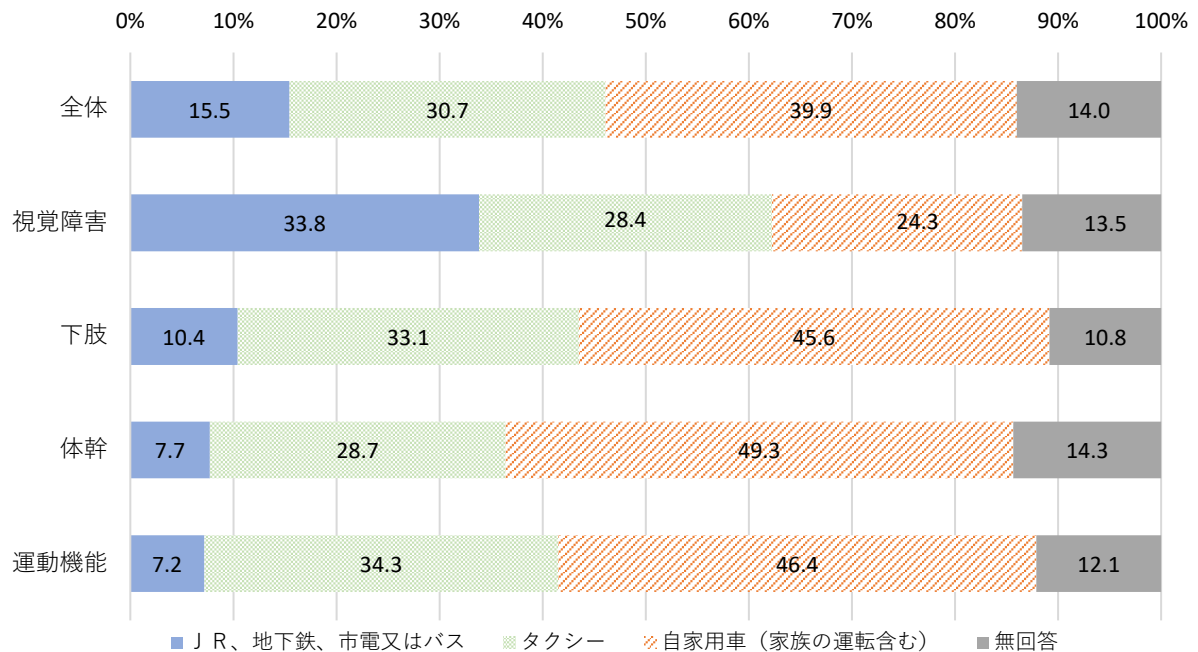
2. ①あなたは冬期間以外、どのような手段で屋外を移動していますか。
最も頻度が高いもの1つに☑をつけてください（公共交通機関、自家用車を除く）。



※票の見やすさを考慮して、「0.0」は省いています。

冬期間以外の屋外での主な移動手段について、「介助者の車椅子介助により移動」は、《肢体不自由（運動機能障害（移動機能））》で最も高く、52.6%となっている。最も低い《視覚障害》と比べると、41.1ポイントの差となっている。

2. ②あなたが冬期間以外、主に利用する公共交通機関等の1つに☑をつけてください。



冬期間以外に主に利用する公共交通機関について、《視覚障害》では「JR、地下鉄、市電又はバス」が最も多く、33.8%となっている。《肢体不自由（下肢・体幹・運動機能）》では、「自家用車（家族の運転含む）」が最も高く、それぞれ45.6%、49.3%、46.4%となっている。

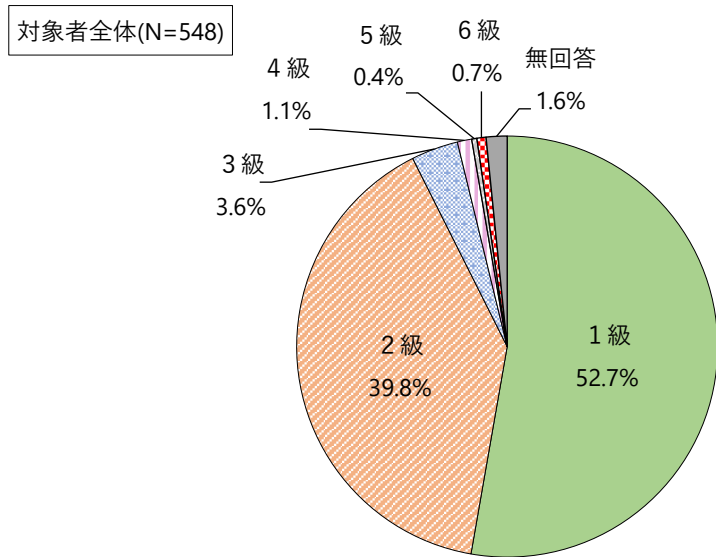
6. 自由記述（一部抜粋）

- ・福祉燃料助成金をいただいておりますが、通院や高齢の親の様子を見に行く事、買い物などで冬期も外出しなければなりません。3月に3万円分のガソリン券をいただきますが冬まで残っていません。物価は上がるのに助成はあげていただけないのが残念でなりません。
- ・地下直結で病院やお店に行けるように通路を作って欲しい。
- ・地下鉄駅付近で介護タクシーに乗れる場所を作って欲しい。また、そこまでの歩道をロードヒーティングにしてほしい。
- ・タクシー料金が値上がっているのに、タクシー券を増やして欲しい。
- ・冬季のツルツル路面の転倒防止に二本ストックが有効なのか試してみたい。冬の転倒防止用具（視覚障害者用の）展示など企画があれば幸いです。介護タクシーがどういうものかわからないです。
- ・身体や精神の重複障害があると、サービス利用が難しいです。一度入院すると退院後連絡しても空きがないとまた一から探さないといけません。
- ・白杖を使用しています。冬季の除雪を少しでも行き届かせてほしいです。雪山に埋まったり、突っ込んでしまい交通事故のリスクが高くなります。冬の点字ブロックは無意味です。
- ・車椅子での屋外移動は不可能と思われる立地に自宅があるので、主にタクシー利用になります。タクシーの利用をしやすく（金額の補助や介護に柔軟なドライバーさんの育成、介護タクシーの増量など）をしていただくと冬期の外出の機会も増えてうれしいです。
- ・そもそもどういうサービスがあるのかを知らせてくれるような資料を作してほしい。
- ・高齢で歩行困難により車いすを利用し、介護タクシーで移動するしかなく、冬期は道路状況もあり、タクシー代が高額になります。日曜日は割増しで+2000円かかります。通常のタクシー券ではすぐに使い切ってしまうので、介護タクシー専用の助成券があればいいと思いました。
- ・福祉除雪のルールでは車いすで外出する事もできず、幅90cmは通ることができないので、もう少しルールも変えてもらって障害者もいろいろな人が居るので寄り添っていただきたい。例えば車を使用している人には金額を高くし、その分車の出入りの部分をしていただくとか、歩行出来ない人が一番の悩みです。ご検討いただくと幸いです。
- ・福祉タクシー券とガソリン券を2種類支給してほしい。

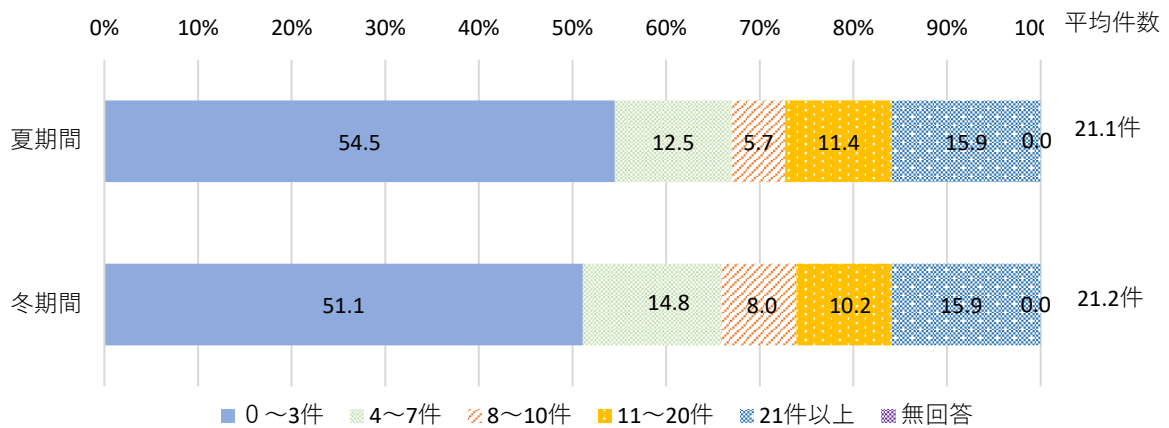
Ⅲ. 同行援護事業者調査結果

1. 調査結果（単純集計）

① 貴事業者における令和6年4月1日付の利用契約者数をお答えください。

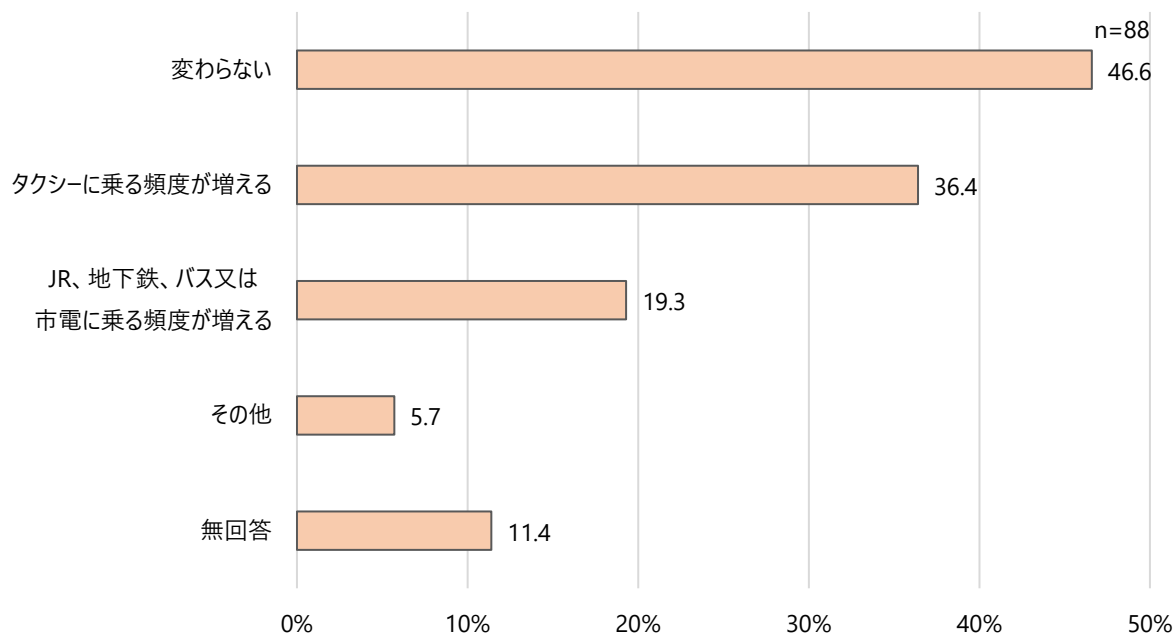


② 令和5年7月（夏期間）と令和6年1月（冬期間）の利用実績（派遣件数）をお答えください。



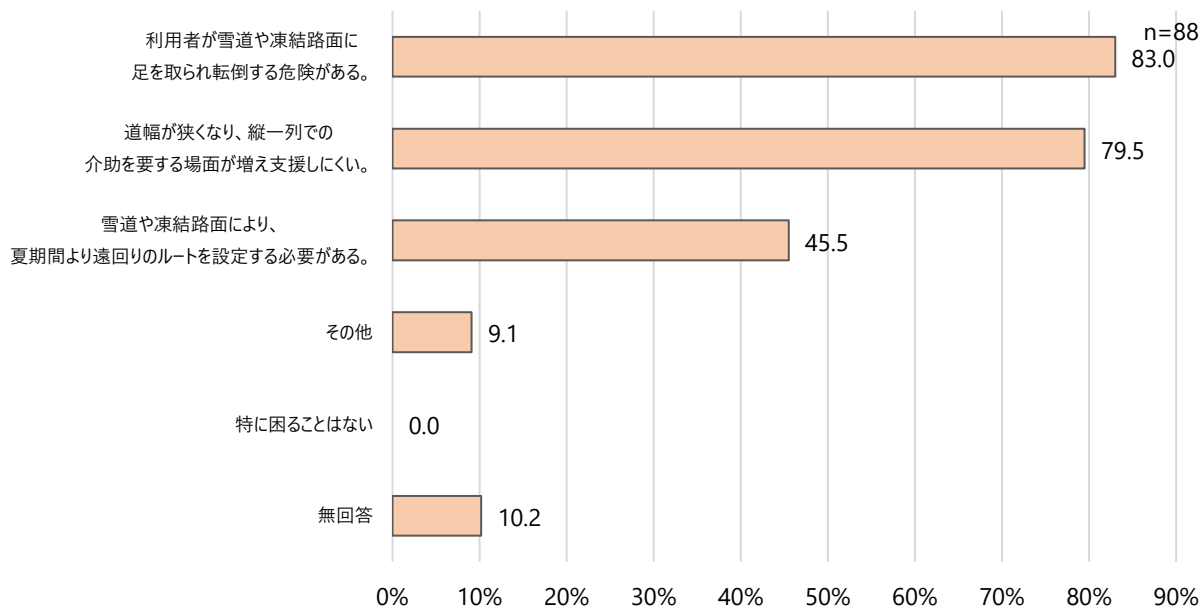
③夏期間と冬期間でサービス提供時の移動手段はどのように変わりますか。

冬期間の移動について当てはまるもの全てに☑をつけてください。



夏期間と冬期間でのサービス提供時の移動手段の変化について、「変わらない」が46.6%で最も高く、次いで「タクシーに乗る頻度が増える」が36.4%、「JR、地下鉄、バスまたは市電に乗る頻度が増える」が19.3%となっている。

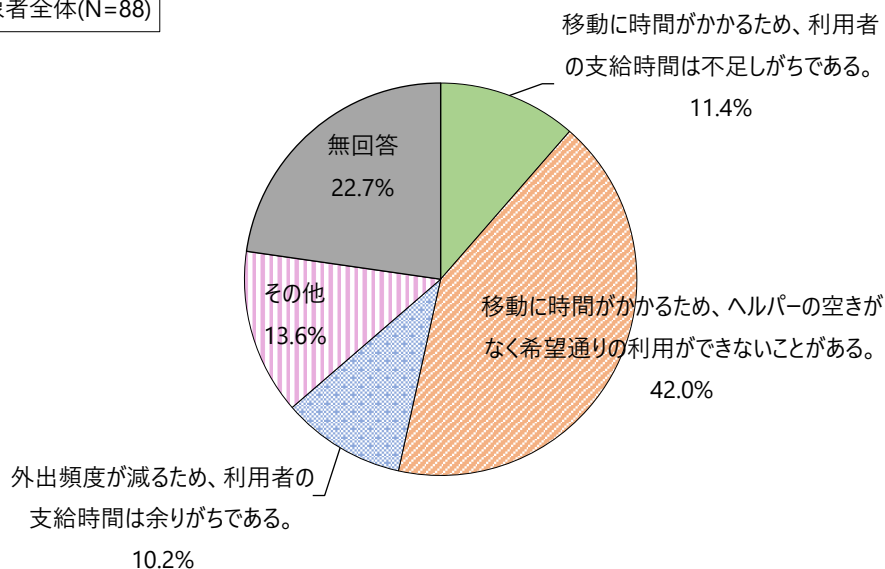
④冬期間における同行援護のサービス提供時に、支援で困ることはありますか。該当する項目全てに☑をつけてください。



冬期間のサービス提供時に困る事について、「利用者が雪道や凍結路面に足を取られ転倒する危険がある。」が83.0%で最も高く、次いで「道幅が狭くなり、縦一列での介助を要する場面が増え支援しにくい。」が79.5%、「雪道や凍結路面により、夏期間より遠回りのルートを設定する必要がある。」が45.5%となっている。

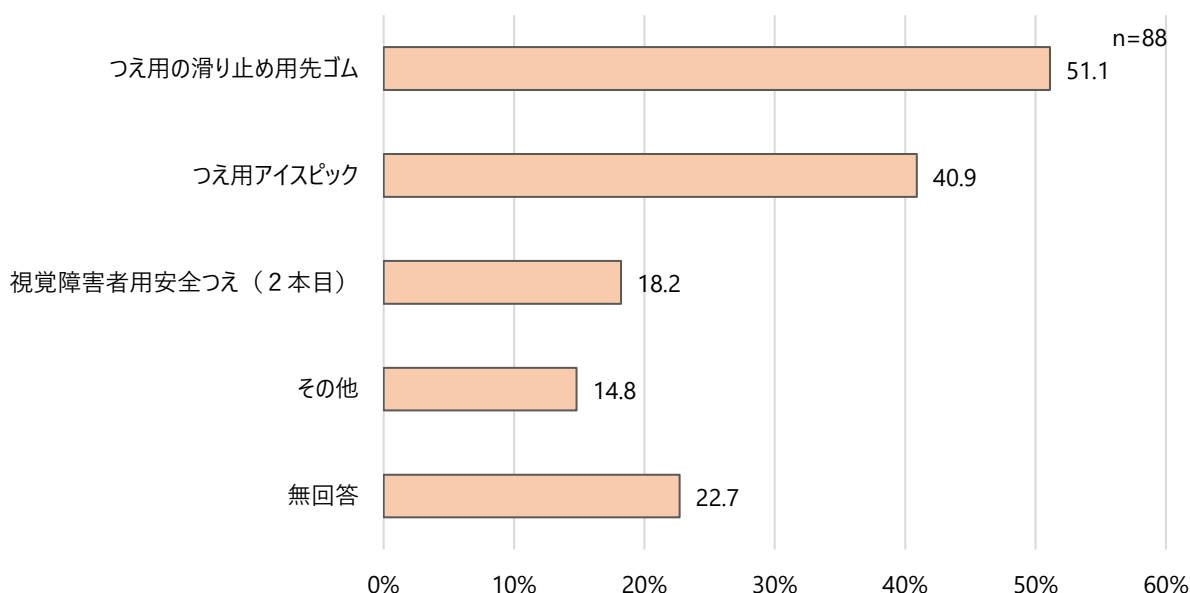
⑤冬期間における同行援護のサービス利用者の利用状況について、最も当てはまる項目1つに☑をつけてください。

対象者全体(N=88)



冬期間における同行援護サービス利用者の利用状況について、「移動に時間がかかるため、ヘルパーの空きがなく希望通りの利用ができないことがある。」が42.0%で最も高く、次いで「移動に時間がかかるため、利用者の支給時間は不足しがちである。」が11.4%、「外出頻度が減るため、利用者の支給時間は余りがちである。」が10.2%となっている。

⑥冬期用の用具の購入費補助を実施した場合、視覚障がい者の方々がどの用品の購入を考えると考えられますか。該当する項目全てに☑をつけてください。



冬期用の用具の購入費補助を実施した場合、視覚障害者の方々がどの用品の購入を考えると考えられるかについて、「つえ用の滑り止め用先ゴム」が51.1%で最も高く、次いで「つえ用アイスピック」が40.9%、「視覚障害者安全つえ（2本目）」が18.2%となっている。

2. 自由記述（一部抜粋）

・点字ブロックが雪でわからなくて外出できないと言っている利用者様がいました。夏は自力で行ける所もあるが、冬は雪のせいでむずかしいのでヘルパーさんが必要と言っていました。

・車イス利用者さんだと雪道で大変なことが多くなると思います。

・夏期間と比べ、タクシーを利用する機会が増えますが、福祉タクシーチケットが不足している場合が多く、経済的負担から外出先の選定や内容に困っている様子が見受けられます。

・夏場は地下歩行空間などで健康もかねて歩いていらした方なども、冬期間は外出を控えるようになってしまいます。家にいることが多く、情報もあまり入ってこないで、もう少し冬期に使えるタクシーチケットや冬期間だけ出来ることを考えられないか？

・バス停の除雪をこまめに行って欲しいです。

・冬場は公共交通機関の利用は危険が多いためタクシー利用が増えるので冬期間の交通費助成がもう少しあるといいと思います。安全確保のため冬場はタクシーの利用を勧めるが金銭的に公共交通機関を利用したいと言う利用者もいるため介助者としては厳しい状況もあります。冬場は道路状況も読めず時間を確保できない為そもそも介助者の配置が難しくなることもあります。

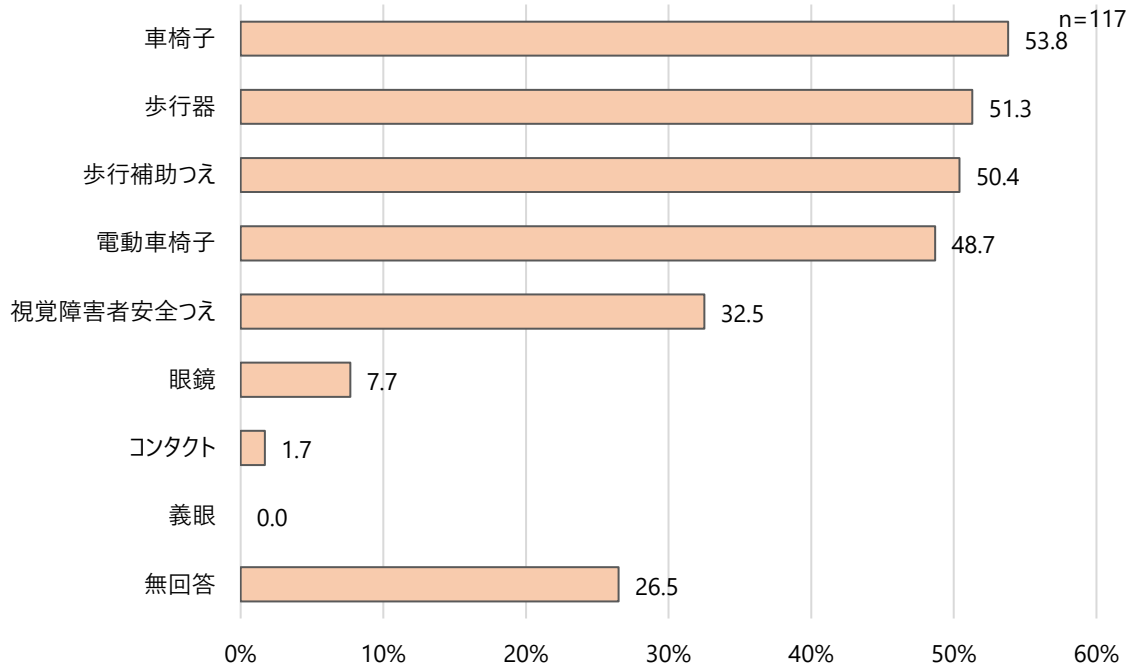
・支援先までの移動に関して関東や関西は原付バイクや自転車移動に対して北海道の場合は自動さ移動が大半です。（ガソリン代や駐車料金の負担が多い）したがって移動に係る経費は関東関西と比較にならないほどコストがかかります。ところが北海道は7級地と報酬単価が低いのはおかしいと思います。

・同行援護を利用する上では利用者もヘルパーも足元が滑らない靴を準備したりと費用がかさむので福祉用具等に加えてくれると有難いです。外出頻度が下がるのは歩行に心配のある高齢者や視覚障がいになりたての方が多いので、手引きで普段歩きなれている方は利用頻度は変わらないが、バスや JR など利用する場合、止まる遅れるがあるため同行援護の時間の延長や利用者宅への迎えに支障が出てしまう。冬季間だけでもヘルパー交通費の補助や同行援護の一月の利用時間を増やしたり、冬季加算などが盛り込まれると良い。また、福祉用具は視覚障害者にとって白杖の盲導犬以外でも足元の滑り止め用品も個人購入ではなく補助などを加えて欲しい。視覚障がいになっての困りごとの第一位は移動です。移動のメインは徒歩ですので白杖、盲導犬で歩けるわけではありません。歩行時の不安軽減ができることが安心して外出できる方が増えると思います。ご検討していただきたいです。

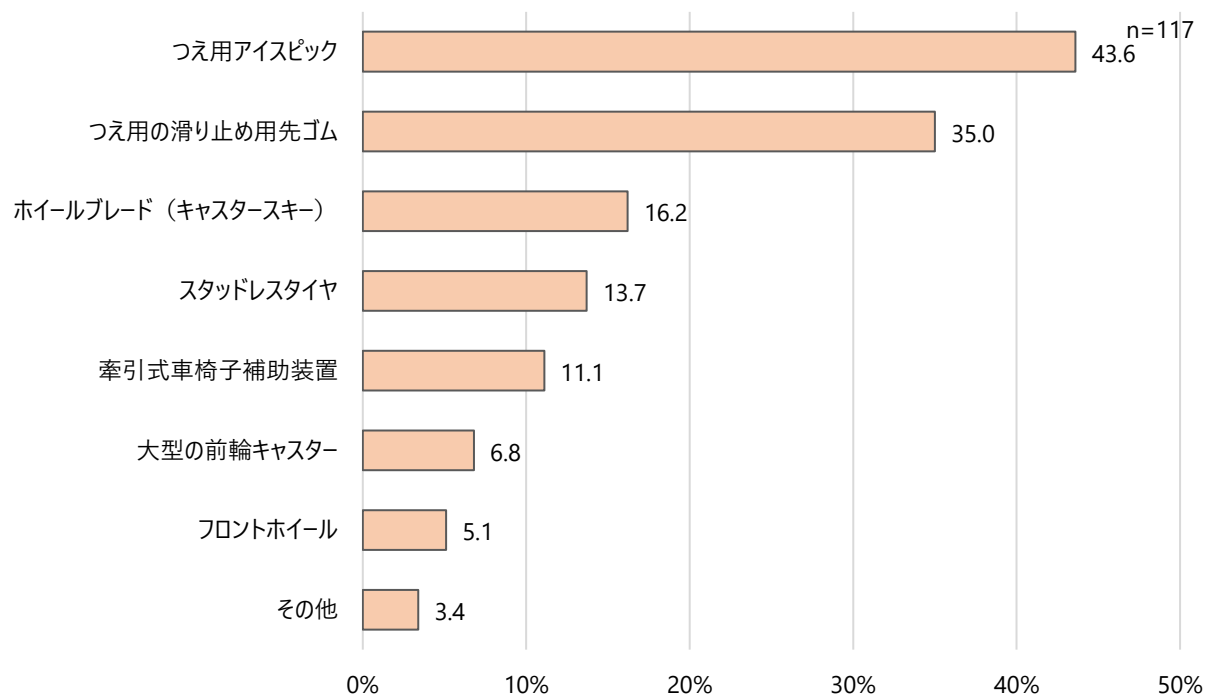
IV. 福祉用具事業者調査結果

1. 調査結果（単純集計）

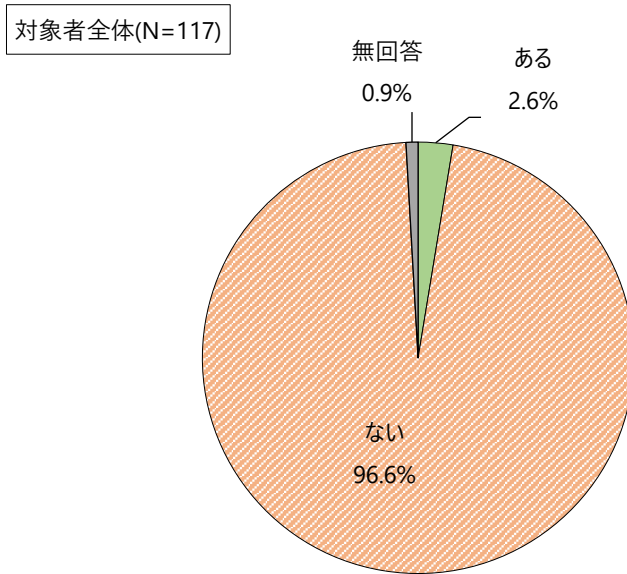
①以下の補装具の中で、貴社で取り扱っている種目全てに☑を入れてください。



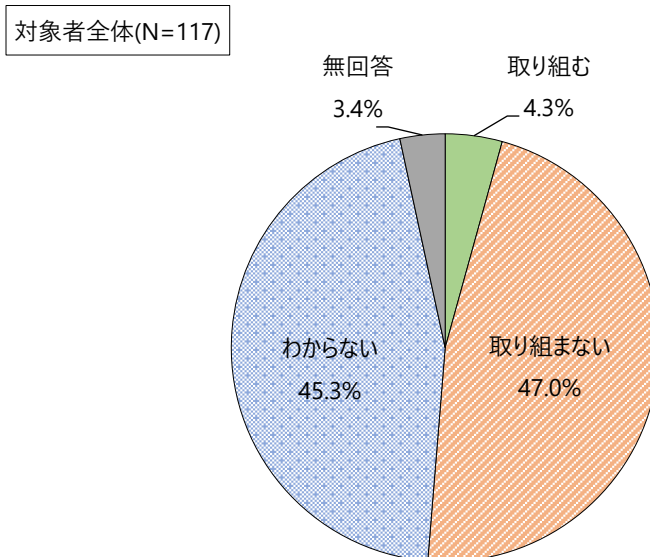
②以下の中で、貴社で取り扱っている冬期用部品全てに☑を入れてください（補装具以外含む）



③貴社において、独自に開発した冬期用部品はありますか。



④冬期用部品の開発に補助金を交付する事業を開始した場合、貴社は冬期用部品の開発に取り組みますか。



冬期用部品の開発に補助金を交付する事業を開始した場合、冬期用部品の開発に取り組むかについて、「取り組まない」が 47.0%で最も高く、次いで「わからない」が 45.3%、「取り組む」が 4.3%となっている。

2. 自由記述（一部抜粋）

- ・札幌市の歩道を全てロードヒーティングにする。
- ・おそらく車椅子ユーザーのほとんどが自家用車、介護タクシーを利用し、ドアドアの移動だと聞いています。ホイールブレードも単体での利用は現実的ではありません。まず歩道の除雪が汚いため、スタッドレスも上肢筋力がないと進めず、電動も車体が重いので雪に沈みます。補助金は介護タクシーの拡充に充てた方が、いくぶん有意義ではないでしょうか？
- ・本音を言えば冬期間は安全のため、外へ出ない方が良いと思います。外出をしたい際は一人ではなく家族や友人といった複数人との外出を心がけると良いと思います。
- ・冬期移動については除排雪の改善につきると思います。
- ・車イスユーザーや視覚障害のある方が冬道で転倒しているのを見たり、起こしたりしたことがあるが、いずれも横断歩道の段差がわからず転んでいた。雪道は高低差がわかりにくく、障がいがなくとも足をとられやすい。つえや車イスの部品だけで解決できるとは思えませんが、いずれにしても歩道の除排雪と歩行者や運転される方の理解と協力の呼びかけが必要！
- ・サンライズメディカルで雪道も走れる『マジック 360』など雪道対応の電動車いすがあります。車なし、公共交通機関利用し出社等のある方など、活動状況に応じ給付できると良いと思います。
- ・雪道や凍結路面で、安全・安楽に移動出来る手段を確保する事が出来たら、利用者の積極的な外出に繋げる事が出来ると思います。
- ・除雪されていない歩道はキャストスキーを装着していても埋まってしまうので、改善してほしいという話を耳にします。